２．５　将来の開発方向と空間戦略

２．５．１　将来の開発方向

南部スマトラ地域は、期待される役割を首尾よく果たしつつ、その目標を達成するために、特に経済の面から、どの方向で開発されるべきか。同地域の天然資源、制約条件及び現在の経済構造を考慮すると、将来進むであろう開発の方向として次の３つのシナリオが考えられる。

方向１：ジャワ向けの資源基地型経済

方向２：農業特化型経済

方向３：農工業関連型経済

これら３方向については、表２．５．１で説明され、比較されている。簡単にそれぞれの特徴をあげると、方向１は、すでに芽生えている傾向を可能な限り伸ばす無干渉主義の計画である。方向２は、同地域で最も比較優位のある農業を成熟させる計画である。方向３は、現在までのところその規模はまだ非常に限られているが、農業に基礎をおいた工業化の可能性を追求するものである。

まず、これらの開発の方向は、必ずしも相互に排他的ではないことに注意すべきである。例えば、方向３は、開発の初期段階では方向２に類似している。実際には、それぞれの経路は変動して、相互に重複する可能性がある。第二に、これらの開発の方向は、南部スマトラ地域全体としての進む道であり、４つの州が全て同じ方向に進むという意味ではない。これとは逆に、４つの州は、現在も今後も、多くの点で異なった方向に進むことになろう。ここで採択する方向は、南部スマトラ地域の一般的なイメージを示すにすぎず、その中で、各州の特徴に基づき、それぞれが独自の役割を与えられる。

１つの開発の方向を選択する場合、３つの方向のそれぞれが、最初に設定した４つの目標をどの程度満していくかを調べることが特に重要である。表２．５．２では、それぞれの開発の方向について、前述の目標をどの程度達成するかが大まかに評価され、「よい」、「普通」、「悪い」のいずれかで示されている。

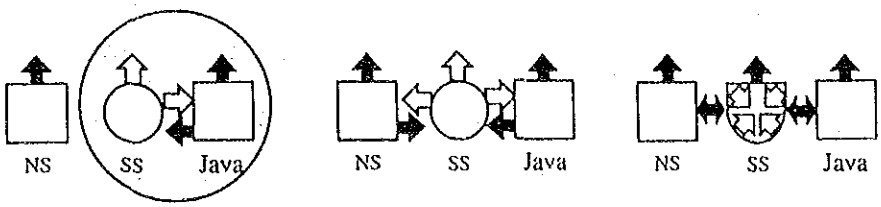
これら３つの選択肢案の中から、特に次の基準に基づいて、方向３が選ばれた。

（１）国家開発に寄与するに十分な高成長の達成。

（２）より公平かつ調和のとれた地域開発の達成。

（３）実現に必要な総努力。

表２．５．１　３種類の開発方向シナリオ

開発方向	方向１	方向２	方向３
	ジャワ向けの資源基地型経済	農業特化型経済	農工業関連型経済
特徴	無干渉主義計画	比較優位のある農業の成熟化	農業に基礎をおいた工業化
地域間のつながり			
	工業中心経済圏 農業中心経済圏 NS 北部スマトラ	工業製品 農業製品 SS 南部スマトラ	
南部スマトラ地域の主要な役割	－農業生産基地 －石炭生産基地 －環境管理地域	－農業生産基地 －移民受入地 －環境管理地域	－農業生産基地 －資源立脚型工業基地 －エネルギー基地 －環境管理地域
国家開発への貢献	ジャワ経済依存型資源基地	北部スマトラ及びジャワ工業基地向け農業原材料供給基地	ジャワ・スマトラ軸へ統合する活発な地域経済
主要輸出産品	原材料	農業原材料	農工業製品
前提条件	－なお管理可能なジャワ経済への集中	－雇用吸収に十分な農業生産性の上昇	－民間投資に有利な環境 －人的資源の育成
北部スマトラ地域の戦略との整合性	整合性とるの困難	整合性あるが、格差拡大	整合性あり

（続く）

開発方向	方向1	方向2	方向3
	ジャワ向けの資源基地型経済	農業特化型経済	農工業関連型経済
便益			
産業構造	農業及び鉱業	農業優勢	農業と工業の混合
付加価値の増加	小	小	大
雇用創出	小	大も可、但し難易度高	大
非石油・ガス輸出	小	大	大
福祉水準の改善	空間的不平等	平等であるが、緩慢	早い地域と緩慢な地域あり
費用			
環境への影響	ある地域では影響大	おおむね影響小	ある地域では影響が予想されるが、最小化可能
投資（公共／民間）	公共：低／民間：高	公共：高／民間：低	公共：高／民間：高
政策介入	最低限の政策介入	農業生産性向上のための政策介入	民間投資に有利な環境をつくるための政策介入

表２．５．２　４つの目標の達成見直し[a)]

目標	方向１	方向２	方向３
(1) ジャワ・スマトラ軸への統合	++	+	+++
(2) 付加価値の増加と雇用の創出	+	+	+++
(3) 地域内格差の是正	+	+++	++
(4) 環境管理システムの確立	++	+++	++

Note： a) 目標の達成見直しを以下の３段階で大まかに評価している。
+++　良　　++　普通　　+　悪

基準１（高成長）によって、方向２が棄却される一方、基準２（公平、調和のとれた開発）によって、方向１が疑問視される。一方、基準３（総努力）は、方向３に関連した問題点を強調することになる。しかし、「公平を伴った成長」を第一のゴールとすると、基準３は、同地域において比較的重要ではなくなる。従って、様々な困難がその過程で予測されるが、方向３が選択されることになる。

２．５．２　空間戦略

調査団は、方向３の農工業関連型経済を選択し、次にその開発の方向を実現するための戦略を決定する。この戦略は、南部スマトラ地域の経済が空間的にどのように形成されるべきかを広く定める１つの空間戦略と、この空間戦略と斉合して各部門の開発に方向を示すいくつかの部門別戦略から構成されている。ここでは、まず、空間戦略がどのように策定されるかについて述べる。

農業と工業がリンクした経済を計画通りに形成する上で、南部スマトラ地域は、地理的条件から派生する独自の問題に直面する。それは、農業が内陸部で最も発展している一方、工業が海岸沿いのいくつかの重要都市に集中しており、この場合農業と工業をどのように結びつけるかという点である。現在同地域では、農業と工業は、形態としてだけでなく空間的にも分離している。農業と工業のつながりをしっかりと確立したいと考えるなら、まずこの空間的分離を克服しなければならない。特にこの問題に対処するために、空間戦略が必要である。３つの空間戦略シナリオが考えられる。

空間戦略１：東側海岸部軸（農業を工業に近づける）

空間戦略２：内陸部軸（工業を農業に近づける）

空間戦略３：二重軸

図２．５．１は、空間戦略の３つの選択肢を示している。これらについては、表２．５．３に特徴がまとめられており、比較されている。

空間戦略１では、東側海岸部を軸とする主要都市に立地する既存の工業中心地を活用する。農業を基盤とする工業に原材料を供給するために、既存工業都市周辺の低湿地帯に、農業生産、特に農園作物を増やすことである。これに対して、空間戦略２は、小農による農業が歴史的によく発達している内陸部に重点を置くものである。製造業者は、内陸部で採れた作物を内陸部で加工するよう誘導される。空間戦略３は、上記２つの戦略を合わせたもので、現在の構造を最大限利用しようというものである。この戦略によると、内陸部では、品質の高い原材料を安定して供給することが可能となるように農業を近代化する一方、海岸沿いの主要都市では、農業を基盤とする工業を促進する。

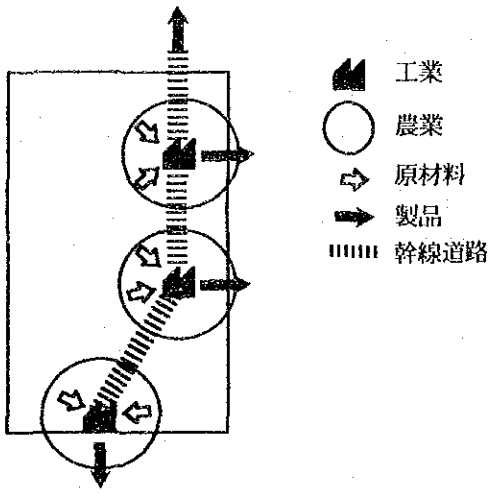
非常に大ざっぱではあるがその便益と費用を比較した後、調査団は、この３つの選択肢の中から、空間戦略３、二重軸空間開発戦略を選択した。表２．５．４に示すとおり、４つの目標についておおよその便益が計算されている一方、投資及び運転費の項目には費用が記載されている。計測は定性的なものではあるが、結果は、空間戦略３の費用効果が高いことを示している。

ここでは、内陸部軸を支援する１つの特別な考慮が重要である。それは、内陸部軸沿いの地域に与える東部スマトラ縦貫道の悪影響についてである。内陸部は、１９８０年代初期にスマトラ縦貫道が完成して以来、開発の機会を享受している地域である。しかし、東部スマトラ縦貫道（Ｆ／Ｓは１９９２年に終了）が完成すると、交通量の相当部分は、その新しい縦貫道に流れ、既存のスマトラ縦貫道沿いの内陸部から経済機会が奪われてしまうことが予測される。最悪の事態は、内陸部が、地方の経済拠点を確立できないうちに、その活力を失ってしまうことである。この望ましくないが、非常に可能性の高い事態を避けるために、少なくとも当分の間は内陸部軸を支援することが必要であり、妥当である。

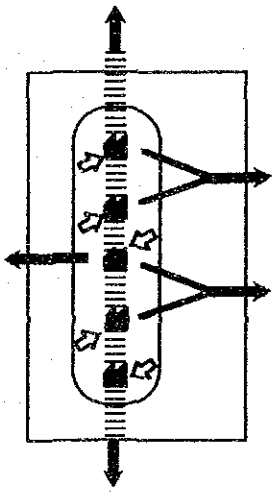
２．５．３　部門別開発戦略

前述の二重軸空間戦略に沿って、主要部門の戦略を展開する。第３巻の第１部、部門別開発計画にその詳細な説明がある。部門別戦略の要約は、表２．５．５の通りである。

空間戦略１：東側海岸部軸（農業を工業に近づける）



空間戦略２：内陸部軸（工業を農業に近づける）



空間戦略３：二重軸

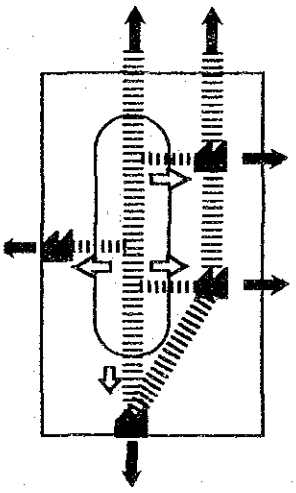


図２．５．１　３種類の空間戦略シナリオ（１）

表2．5．3　3種類の空間戦略シナリオ（2）

空間戦略	空間戦略1 東側海岸部軸	空間戦略2 内陸部軸	空間戦略3 二重軸
特徴	農業を工業に近づける	工業を農業に近づける	現在の構造の最大限活用
主要な受益者	東側海岸部（都市中心）	内陸部（農村及び都市）	海岸部（都市） 内陸部（農村）
ポテンシャルの利用	－既存工業基地の利用 －未使用低湿地の利用	－内陸部経済の活性化	－既存工業基地の利用 －農業生産内陸部の強化
格差縮小	小	非常に効果的	普通
想定される障害	－環境破壊 －農場労働者の不足 －港	－熟練労働者の不足 －スマトラ縦貫道	－運輸・交通関連費用高 －港 －環境破壊
重要な投資	－東部スマトラ縦貫道（公共） －港(公共) －大規模農園（民間）	－工業（民間）	－東部スマトラ縦貫道（公共） －港（公共） －東西間連絡道路（公共）
全体の開発コスト	相対的低	相対的高	普通

表2．5．4　3種類の空間戦略シナリオの比較

	方向1	方向2	方向3
便益			
(1) ジャワ・スマトラ軸への統合	++	+	+++
(2) 付加価値の増加と雇用の創出	++	++	++
(3) 地域内格差の是正	+	+++	++
(4) 環境管理システムの確立	+	+++	++
小計	+6	+9	+9
費用			
(1) 投資	－	－－－	－
(2) 実施費用	－	－－	－－－
小計	－2	－5	－4
合計	+4	+4	+5

表2.5.5　部門別開発戦略

農　業	（1）水田地域における営業の集約化と作付体系の多角化を進める。 （2）大規模灌漑施設を拡張・改良し、また低湿地（感潮及び非感潮地帯）における漸進的開拓を進める。 （3）市場展望に基づいて農業生産の多角化を振興する。 （4）小農によるエステート作物の栽培を改良・振興する。 （5）大規模エステート開発を振興する。 （6）畜産業、農業における企業経営を振興し、また農畜産物加工産業を育成する。
水産業	（1）東岸海域の漁業資源の適正管理を徹底する。 （2）西岸海面漁業を積極的に開発する。 （3）内水面漁業資源を最大限活用する。 （4）漁業組合（ＫＵＤ）の強化により加工・流通の組織化を図る。
工　業	（1）各州の将来の工業中心地または「核」を明確化する。 （2）どのような技術を使い、どの程度までどの天然資源を加工するかに関する詳細な調査を実施する。 （3）潜在的な天然資源の範囲を調査し、その利用可能な賦存量を推定する。 （4）加工レベルを高める具体的な方法について工夫する。 （5）工業団地を開発・改善する。 （6）工業分野の研究開発（Ｒ＆Ｄ）機関をグレードアップする。 （7）職業訓練センターを改善する。 （8）ＢＰＥＮ（輸出振興庁）とＫＡＤＩＮ（インドネシア商工会議所）の協力により、市場情報センターを設立する。 （9）ＩＩＳ（インドネシア工業規格）や制度金融などの関連制度を改善する。 (10) 様々な工業間のつながりを強化する。 (11) 民間投資を促進する。 (12) 上記活動を実施・管理・調整する公的機関を強化・育成する。
鉱業／ エネルギー	（1）新しい鉱脈の開発を継続する。 （2）錫採掘作業の合理化と刷新を行う。

（3）石炭火力、水力、地熱などの発電所を増設し、地域内及び地域外に電力を供給する。

（4）送電網を拡張し、孤立した小規模発電所を減らす。

（5）適切な石炭輸送システムを開発する。

観　光　（1）インフラストラクチャー、特に陸海空の運輸交通インフラストラクチャーを改善する。

（2）周遊旅行ができるように重要な観光地を結びつけ、オプションツアーを可能にしながら、重要な観光地の開発を集中的に行う。

（3）地方の文化的遺産を育成しその独自性を確立しながら、自然資源と文化資源を保全する。

（4）適切なインセンティブを与えて民間投資を誘致する。

（5）地方における観光産業の人材の質を上げる。

（6）宣伝活動を強化し、潜在的な観光客により多くの情報を提供する。

水資源　（1）都市の上水道及び下水道を共に整備する。

（2）東岸の低湿地帯における農村上水道供給を優先する。

（3）必要とされる地域において洪水管理、砂防及び排水対策を緊急に実施する。

（4）バタン・ハリ川では流域全体にわたるアプローチが必要である。

（5）灌漑開発と農業開発の統合を促進する。

（6）湿地開発は基本的に既存開発地域の改善に限定する。

（7）現在進行中または開始予定の水力発電計画を実施段階へ進める。

交　通　（1）大量商品輸送の改善を図る。

（2）コンテナ輸送に備える。

（3）東海岸における海港の改修あるいは建設を行う。

（4）石炭輸送の強化を図る。

（5）鉄道の長期的な役割を明確にする。

（6）パレンバンを航空交通の中心地として育成する。

通　信　（1）主要都市における未処理加入申込を処理する。

（2）周辺の農村部まで通信網を拡大する。

（3）光ファイバーを使い伝送システムの容量を拡大する。

（4）通信サービスの質を向上させる。

都市農村開発
（1）新たなＩＵＩＤＰ（総合都市インフラストラクチャー開発プログラム）アプローチを促進して、戦略的中心地などの都市開発を継続する。
（2）中小規模中心地及び農村中心地のサービス機能を強化し、スマトラ縦貫道沿いのそれら中心地の機能的階層を明確化する。
（3）都市農村間のつながり及び地方分権化・参加型開発を強調しつつ、農村開発を促進する総合的行動をとる。

土地利用／林業／環境
（1）森林調査簿を作成する。
（2）営業所有者に対してインセンティブを与え、持続可能な森林管理を促進する。
（3）くず材部分を削減する。
（4）産業用造林を促進する。
（5）木製品を利用する小規模工業を支援する。
（6）環境保全に対する制約を排除する。
（7）森林居住者の共同体が持続可能な森林管理に参加できるよう支援する。

２．６　マクロ経済フレームワーク

２．６．１　ＧＤＰ

（1）予測方法

計画期間中のマクロ経済フレームワークを策定するために、以下の理由から、重要な経済指標として、石油・ガスを除くＧＤＰ（または非石油・ガスＧＤＰ）を選択した。

1）石油・ガス産業からの収入は、地域の歳入とはならず、直接国の会計に繰り入れられるため、石油・ガスを除くＧＤＰの方が地域経済の実体を反映する指標としてよりふさわしい。

2）雇用の機会や補助金などの補助的な便益を除き、石油・ガス収入は、地域経済にほと

んど影響を与えない。

3）従って、石油・ガスを除くＧＤＰの方が、地域経済実績の固有の特徴と性格をより明確に反映し、示すことになる。

予測手順は、まず国のレベルから始め、地域のレベルへ下りていく。すなわち石油・ガスを除く国全体のＧＤＰをまず予測し、それから、国家経済の環境という文脈の中での地域の成長ポテンシャル、比較優位、制約を考慮して、南部スマトラ地域全体の予測を行う。それから、各州の成長ポテンシャルと制約を考慮して、石油・ガスを除く地域全体のＧＤＰを４州に振り分ける。さらに、州のＧＤＰを農業、鉱業、製造業、サービス業の４部門に分ける。農業部門は、ＧＤＰにおける単独で最大の部門であり、最大の雇用を提供している。製造業部門は、現在最も急速に成長している産業であり、今後の国及び地域経済の起動力である。

石油・ガスを除くＧＤＰの予測に基づき、石油・ガス関連部門の成長率に関する以下の仮定条件のもとに、２０１０年までの石油・ガスを含むＧＤＰについても予測している。

1）石油・ガス関連鉱業部門は３％の成長
2）石油・ガス関連製造業部門は５％の成長

（2）予測で考慮された要因

経済予測に関して、国際経済及び国内経済を取り巻く不確定要素が多いために、長期予測はほとんどない。インドネシア政府はすでに、１９９４／９５年から始まる第２期２５カ年長期開発計画の策定に着手したが、まだ作業中であり、利用することはできない。

このような状況をふまえて、以下のような３つのフレームワークをまず考えてみた。

フレームワーク１：国全体の非石油・ガスＧＤＰが年平均５％で成長する、低経済成長率シナリオ（または最低経済成長率シナリオ）。
フレームワーク２：国全体の非石油・ガスＧＤＰが年平均８％で成長する、高経済成長率シナリオ（または最高経済成長率シナリオ）。
フレームワーク３：国全体の非石油・ガスＧＤＰが年平均６％で成長する、中程度の経済成長率シナリオ。

各フレームワークにおいて、国全体のＧＤＰ予測に沿って、地域の目標を達成できるよう

に、また選定される開発シナリオ及び開発戦略に基づいて、地域のＧＤＰが予測される。既存の調査を参考にしながら、以下の状況と要素を考慮して、独自の予測を行っている。

1）地域通商協定が、域外あるいは世界経済に開かれるという状況となった時、長期的に地域経済圏、あるいは地域経済統合、特にアジア太平洋版の形成を図る最近の力強い国際的な動き。

2）国際収支赤字の増加、対外債務残高の増加、過熱する経済や金融引締め政策、メガプロジェクトの見直し・延期や対外商業借入の年間限度枠設定に伴う影響などの国内の懸念。

3）インフラストラクチャー、労働力、市場、技術などの投資機会の国際的な比較、特にＡＳＥＡＮ諸国との比較。

4）新興工業国・地域（ＮＩＥｓ）の実証的成長パターンと動向、及び最近の国家、州の経済成長の分析。

5）南部スマトラ地域、州固有の成長ポテンシャル、比較優位、制約。

6）国際金融機関（ＩＭＦ、世銀、ＡＤＢ）による、特に短期の経済予測。

上記の要素すべてを考慮して、南部スマトラ地域のマクロ経済フレームワークには、フレームワーク３が最も適切であると結論した。このフレームワーク３、すなわち国の非石油・ガスＧＤＰ６％成長シナリオについて、以下で論じることにする。表２．６．１では、３つのフレームワークが比較されている。図２．６．１は、１９８３年固定価格による非石油・ガスＧＤＰの予測を示している。

（３）ＧＤＰ予測

上記仮定に基づいて、フレームワーク３の予測（国の非石油・ガスＧＤＰ成長率が６％）が表２．６．２に、石油・ガスを含むＧＤＰの予測が表２．６．３に要約されている。

全予測期間２０年を５年ごとに区切って、ＧＤＰを予測する。国のＧＤＰは、徐々に上向きに成長すると予測される。国の非石油・ガスＧＤＰは、１９８３年固定価格で、１９９０

年（基準年）の９４兆３，４６０億ルピア（暫定値）から、年平均６％の成長により、２０１０年には３０３兆１，６４０億ルピアになると予測されている。既に見たように、政府の政策の実施、投資を含む国内経済の状態、そして停滞する国際経済環境よりもたらされた様々な影響があいまって、国の非石油・ガスＧＤＰは、最初の５年間（１９９０－９５年）中程度の成長率、５．６％になると推定される。

部門別に見ると、製造業部門で顕著な伸びが予想される。１９９０年から９５年にかけては年平均成長率８．６％を記録し、１９９０年から２０１０年までの全期間では８．２％を記録するであろう。ＧＤＰ全体に対する製造業部門のシェアは、１９９０年の１８．２％から２０１０年の２７．２％へ上昇すると予測される。この高成長の予測は、製造業部門は、まだ工業化の入口に立ったばかりであるが、十分に成長するポテンシャルがあり、国家経済を確かな駆動力として主導していくことになるとの事実に基づくものである。一方、農業部門は、主として、一次産品価格の停滞のために、計画期間中、適度な成長率になると予測される。そのシェアは、１９９０年の２４．０％から２０１０年の１４．４％に低下すると予測される。農業、鉱業、製造業以外のあらゆる部門で構成されるサービス業部門は、１９９０－９５年

表２．６．１　３種類のＧＤＰフレームワークのシナリオ

(A) GDP without Oil/Gas

(1983 constant prices)

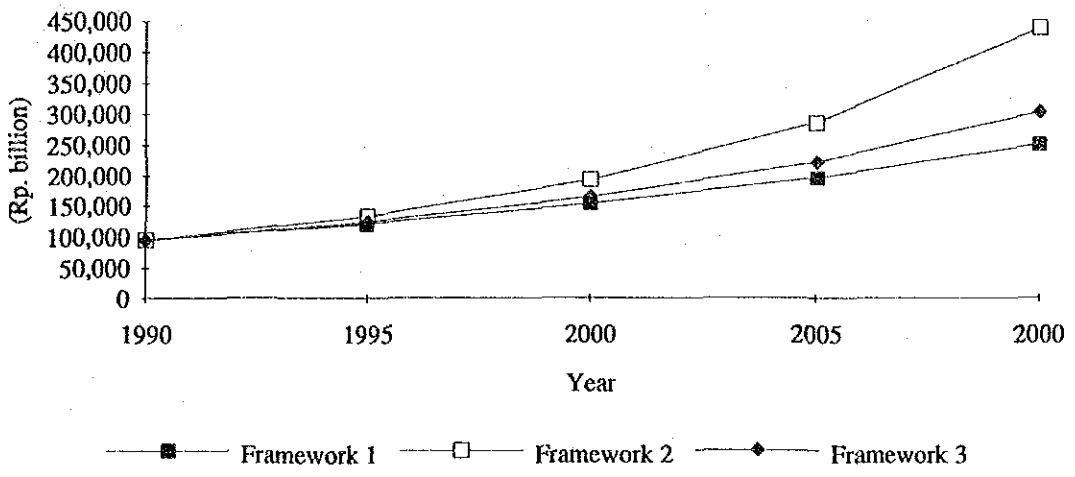
Province		Framework 1 (National GDP 5% growth)		Framework 2 (National GDP 8% growth)		Framework 3 (National GDP 6% growth)	
	GDP 1990 (Rp. bil)	GDP 2010 (Rp. bil)	A.G.R(%) 1990-2010	GDP 2010 (Rp. bil)	A.G.R(%) 1990-2010	GDP 2010 (Rp. bil)	A.G.R(%) 1990-2010
Jambi	756	3,177	7.4	5,588	10.5	3,809	8.4
South Sumatra	4,004	12,868	6.0	22,513	9.0	15,518	7.0
Bengkulu	454	1,775	7.1	3,117	10.1	2,138	8.1
Lampung	1,938	9,050	8.0	15,838	11.1	10,927	9.0
Region	7,153	26,870	6.8	47,056	9.9	32,392	7.8
Nation	94,346	250,313	5.0	439,527	8.0	303,164	6.0

(B) GDP with Oil/Gas

(1983 constant prices)

Province		Framework 1 (National GDP 5% growth)		Framework 2 (National GDP 8% growth)		Framework 3 (National GDP 6% growth)	
	GDP 1990 (Rp. bil)	GDP 2010 (Rp. bil)	A.G.R(%) 1990-2010	GDP 2010 (Rp. bil)	A.G.R(%) 1990-2010	GDP 2010 (Rp. bil)	A.G.R(%) 1990-2010
Jambi	942	3,513	6.8	5,924	9.6	4,145	7.7
South Sumatra	5,141	15,193	5.6	24,838	8.2	17,844	6.4
Bengkulu	454	1,775	7.1	3,117	10.1	2,138	8.1
Lampung	1,938	9,050	8.0	15,838	11.1	10,927	9.0
Region	8,476	29,531	6.4	49,718	9.3	35,053	7.4
Nation	115,447	292,767	4.8	481,980	7.4	345,617	5.6

(A) National Non-Oil/Gas GDP



(B) Regional Non-Oil/Gas GDP

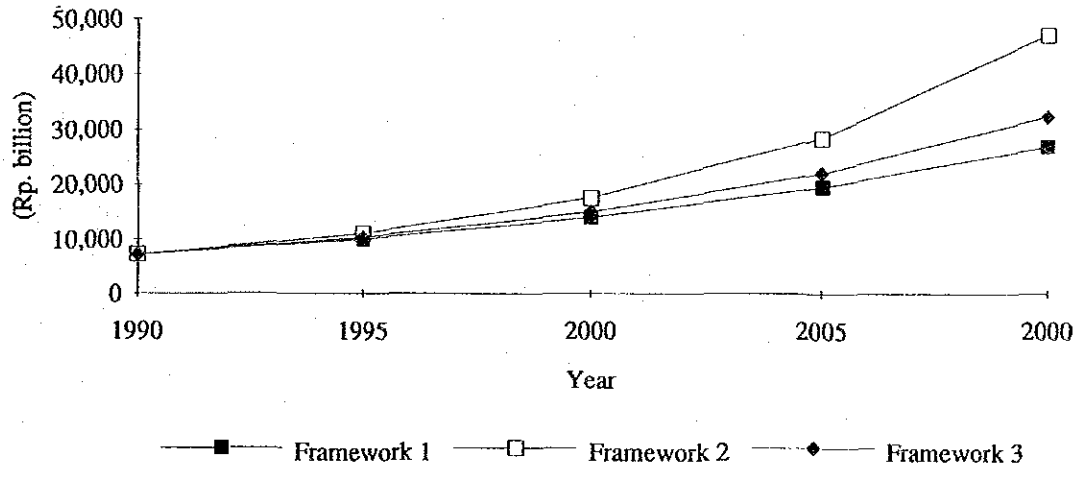


図２．６．１　非石油・ガスＧＤＰ

表２．６．２　非石油・ガスＧＤＰ：６％成長シナリオ（国）

(1983 constant prices)

Province	Sector	GDP(Rp billion)					Real Growth Rate(%)					Percentage Share(%)				
		1990	1995	2000	2005	2010	'90-'95	'95-'00	'00-'05	'05-'10	'90-'10	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	Agriculture	288	379	495	664	833	5.6	5.5	5.4	5.3	5.4	38.1	33.7	29.6	25.7	21.9
	Mining	2	2	2	3	3	2.5	3.0	3.5	3.5	3.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
	Manufacturing	128	209	340	560	922	10.3	10.2	10.5	10.5	10.4	16.9	18.6	20.3	22.3	24.2
	Services	338	533	835	1,302	2,050	9.5	9.4	9.3	9.5	9.4	44.7	47.5	49.9	51.9	53.8
	GDP	756	1,122	1,672	2,508	3,809	8.2	8.3	8.5	8.7	8.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
South Sumatra	Agriculture	918	1,172	1,481	1,864	2,323	5.0	4.8	4.7	4.5	4.7	22.9	21.0	19.0	17.0	15.0
	Mining	302	397	518	665	840	5.6	5.5	5.1	4.8	5.2	7.5	7.1	6.6	6.1	5.4
	Manufacturing	838	1,237	1,834	2,733	4,090	8.1	8.2	8.3	8.4	8.2	20.9	22.2	23.5	24.9	26.4
	Services	1,946	2,767	3,973	5,704	8,265	7.3	7.5	7.5	7.7	7.5	48.6	49.7	50.9	52.0	53.3
	GDP	4,004	5,573	7,807	10,965	15,518	6.8	7.0	7.0	7.2	7.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Bengkulu	Agriculture	180	239	316	415	542	5.9	5.7	5.6	5.5	5.7	39.6	35.5	32.2	29.0	25.4
	Mining	28	45	69	103	148	10.2	8.8	8.4	7.5	8.7	6.1	6.7	7.0	7.2	6.9
	Manufacturing	14	25	43	70	115	12.5	11.0	10.6	10.3	11.1	3.1	3.7	4.3	4.9	5.4
	Services	232	364	553	843	1,333	9.4	8.7	8.8	9.6	9.1	51.2	54.0	56.4	58.9	62.3
	GDP	454	674	980	1,431	2,138	8.2	7.8	7.9	8.4	8.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Lampung	Agriculture	868	1,151	1,518	1,984	2,569	5.8	5.7	5.5	5.3	5.6	44.8	39.1	33.4	28.1	23.5
	Mining	4	5	6	8	11	4.5	5.0	6.0	7.0	5.6	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
	Manufacturing	208	389	702	1,247	2,208	12.3	12.5	12.2	12.1	12.3	11.2	13.2	15.5	17.7	20.2
	Services	849	1,398	2,314	3,811	6,138	10.5	10.6	10.5	10.0	10.4	43.8	47.5	51.0	54.1	56.2
	GDP	1,938	2,943	4,539	7,051	10,927	8.7	9.1	9.2	9.2	9.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Region	Agriculture	2,254	2,940	3,810	4,906	6,267	5.5	5.3	5.2	5.0	5.2	31.5	28.5	25.4	22.3	19.3
	Mining	335	448	596	779	1,003	6.0	5.8	5.5	5.2	5.6	4.7	4.3	4.0	3.5	3.1
	Manufacturing	1,198	1,861	2,918	4,610	7,336	9.2	9.4	9.6	9.7	9.5	16.7	18.0	19.5	21.0	22.6
	Services	3,365	5,062	7,674	11,660	17,786	8.5	8.7	8.7	8.8	8.7	47.0	49.1	51.2	53.1	54.9
	GDP	7,153	10,312	14,998	21,956	32,392	7.6	7.8	7.9	8.1	7.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Nation	Agriculture	22,605	26,460	31,124	36,787	43,692	3.2	3.3	3.4	3.5	3.3	24.0	21.4	18.0	16.6	14.4
	Mining	1,564	1,903	2,206	2,496	2,824	4.0	3.0	2.5	2.5	3.0	1.7	1.5	1.3	1.1	0.9
	Manufacturing	17,150	25,906	38,775	56,710	82,556	8.6	8.4	7.9	7.8	8.2	18.2	20.9	23.6	25.6	27.2
	Services	53,028	69,635	92,311	125,292	174,092	5.6	5.8	6.3	6.8	6.1	56.2	56.2	56.1	56.6	57.4
	GDP	94,346	123,904	164,416	221,284	303,164	5.6	5.8	6.1	6.5	6.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Remarks: Services sector includes all sectors other than the Agriculture, Mining and Manufacturing sectors.

表２．６．３　石油・ガスＧＤＰ：６％成長シナリオ（国）

(1983 constant prices)

Province	Sector	GDP(Rp billion)					Real Growth Rate(%)					Percentage Share(%)				
		1990	1995	2000	2005	2010	'90-'95	'95-'00	'00-'05	'05-'10	'90-'10	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	Agriculture	288	379	495	664	833	5.6	5.5	5.4	5.3	5.4	30.6	28.3	25.7	23.0	20.1
	Mining	187	217	252	292	339	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	19.9	16.2	13.1	10.4	8.2
	Manufacturing	128	209	340	560	922	10.3	10.2	10.5	10.5	10.4	13.6	15.6	17.7	20.0	22.3
	Services	338	533	835	1,302	2,050	9.5	9.4	9.3	9.5	9.4	35.9	39.8	43.5	46.6	49.5
	GDP	942	1,338	1,921	2,798	4,145	7.3	7.5	7.8	8.2	7.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
South Sumatra	Agriculture	918	1,172	1,481	1,864	2,323	5.0	4.8	4.7	4.5	4.7	17.9	16.9	15.7	14.4	13.0
	Mining	1,120	1,345	1,617	1,939	2,317	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7	21.8	19.4	17.2	15.0	13.0
	Manufacturing	1,158	1,645	2,355	3,398	4,939	7.3	7.4	7.6	7.8	7.5	22.5	23.7	25.0	26.3	27.7
	Services	1,946	2,767	3,943	5,704	8,265	7.3	7.5	7.5	7.7	7.5	37.8	39.9	42.1	44.2	46.3
	GDP	5,141	6,929	9,427	12,904	17,844	6.1	6.4	6.5	6.7	6.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Bengkulu	Agriculture	180	239	316	415	542	5.9	5.7	5.6	5.5	5.7	39.6	35.5	32.2	29.0	25.4
	Mining	28	45	69	103	148	10.2	8.8	8.4	7.5	8.7	6.1	6.7	7.0	7.2	6.9
	Manufacturing	14	25	43	70	115	12.5	11.0	10.6	10.3	11.1	3.1	3.7	4.3	4.9	5.4
	Services	232	364	553	843	1,333	9.4	8.7	8.8	9.6	9.1	51.2	54.0	56.4	58.9	62.3
	GDP	454	674	980	1,431	2,138	8.2	7.8	7.9	8.4	8.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Lampung	Agriculture	868	1,151	1,518	1,984	2,569	5.8	5.7	5.5	5.3	5.6	44.8	39.1	33.4	28.1	23.5
	Mining	4	5	6	8	11	4.5	5.0	6.0	7.0	5.6	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
	Manufacturing	218	389	702	1,247	2,208	12.3	12.5	12.2	12.1	12.3	11.2	13.2	15.5	17.7	20.2
	Services	849	1,398	2,314	3,811	6,138	10.5	10.6	10.5	10.0	10.4	43.8	47.5	51.0	54.1	56.2
	GDP	1,938	2,943	4,539	7,051	10,927	8.7	9.1	9.2	9.2	9.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Region	Agriculture	2,254	2,940	3,810	4,906	6,267	5.5	5.3	5.2	5.0	5.2	26.6	24.7	22.6	20.3	17.9
	Mining	1,339	1,612	1,944	2,342	2,816	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	15.8	13.6	11.5	9.7	8.0
	Manufacturing	1,518	2,269	3,439	5,275	8,184	8.4	8.7	8.9	9.2	8.8	17.9	19.1	20.4	21.8	23.3
	Services	3,365	5,062	7,674	11,660	17,786	8.5	8.7	8.7	8.8	8.7	39.7	42.6	45.5	48.2	50.7
	GDP	8,476	11,884	16,868	24,184	35,053	7.0	7.3	7.5	7.7	7.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Nation	Agriculture	22,605	26,460	31,124	36,787	43,692	3.2	3.3	3.4	3.5	3.3	19.6	17.8	16.0	14.3	12.6
	Mining	17,538	20,421	23,673	27,382	31,674	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	15.2	13.7	12.2	10.7	9.2
	Manufacturing	22,277	32,450	47,126	67,368	96,160	7.8	7.7	7.4	7.4	7.6	19.3	21.8	24.3	26.2	27.8
	Services	53,028	69,635	92,311	125,292	174,092	5.6	5.8	6.3	6.8	6.1	45.9	46.7	47.5	48.8	50.4
	GDP	115,447	148,966	194,235	256,830	345,617	5.2	5.5	5.7	6.1	5.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Remarks: Services sector includes all sectors other than the Agriculture, Mining and Manufacturing sectors.

の５．６％から２００５－２０１０年の６．８％へ着実なペースで成長するであろう。そのシェアは、１９９０年の５６．２％から２０１０年の５７．４％へ緩やかに上昇することが予測される。

一方、南部スマトラ地域は、その長期目標とターゲットを達成するために、国全体のＧＤＰより高く、早いペースで成長する必要があり、予測はそれに従って行われる。これは、高成長のポテンシャルと比較優位があるにもかかわらず、この地域は全体として、開発が停滞、あるいは遅れており、近い将来に開発されると予測される。南部スマトラ地域の非石油・ガスＧＤＰは、１９８３年固定価格で、１９９０年には７兆１，５３０億ルピアと推定されたが、２０１０年には、３２兆３，９２０億ルピアとなることが予測されている。今後２０年間の成長率は、年平均７．８％と予測され、年６％の国全体の成長率より約２％高い。この急成長に伴い、国全体の非石油・ガスＧＤＰにおける南部スマトラ地域の割合は、１９９０年の７．６％から２０１０年の１０．７％へ上昇することが予測される。

州別では、ランポン州が、南部スマトラ地域の中で最も急成長すると予測されており、年平均成長率９．０％を記録することになろう。これは、ジャワへの地理的近接性及び、それに伴う溢出効果と高い投資機会により、ジャワ経済から最も便益を受けることができ、また、産業間のつながりと地域内の経済統合を通じての共同作用効果も期待できる状況があるためである。南スマトラ州は、１９９０年時点で南部スマトラ地域全体の非石油・ガスＧＤＰの５６．０％を占めており、年平均７．０％で成長することが予測される。ジャンビ州とベンクル州は、１９９０年にこの地域全体の非石油・ガスＧＤＰのそれぞれ、１０．６％と６．４％を占めており、主として、農業と工業の間の産業間のつながり、及び州間あるいは州内経済統合による製造業の飛躍的な成長により、それぞれ年平均８．４％と８．１％で成長することが予測される。図２．６．２は、州別の非石油・ガスＧＤＰを示したものである。

部門別で見ると、国の場合と同様に、製造業部門は、２０年間の年平均成長率が９．５％になると予測され、地域経済をリードする原動力となろう。１９９０年には、農業部門（３１．５％）の半分の１６．７％であった地域全体のＧＤＰに占めるそのシェアは、２０１０年には、２２．６％に上昇するであろう。一方、農業部門は、主として直ちに開発できるポテンシャルがあるため、２０年間の年平均成長率が５．２％と予測されている。国全体の農業部門の成長率３．３％より６０％も高い成長率にもかかわらず、主として、他部門に比べて相対的に低い成長率のために、南部スマトラ地域の農業部門のシェアは、１９９０年の３１．５％から２０１０年の１９．３％へ減少することが予測される。地域全体の非石油・ガスＧＤＰの５％以下の割合でしかないが、エネルギー利用のための石炭開発が、特に有望なため、鉱業部門も急速に成長すると予測される。従って、現在農業が主要部門である南部スマトラ地域の経済は、国の経済とほぼ同様な構造を持つ、より多様化した、ダイナミックな経済へ転換することが期待さ

(1983 constant prices)

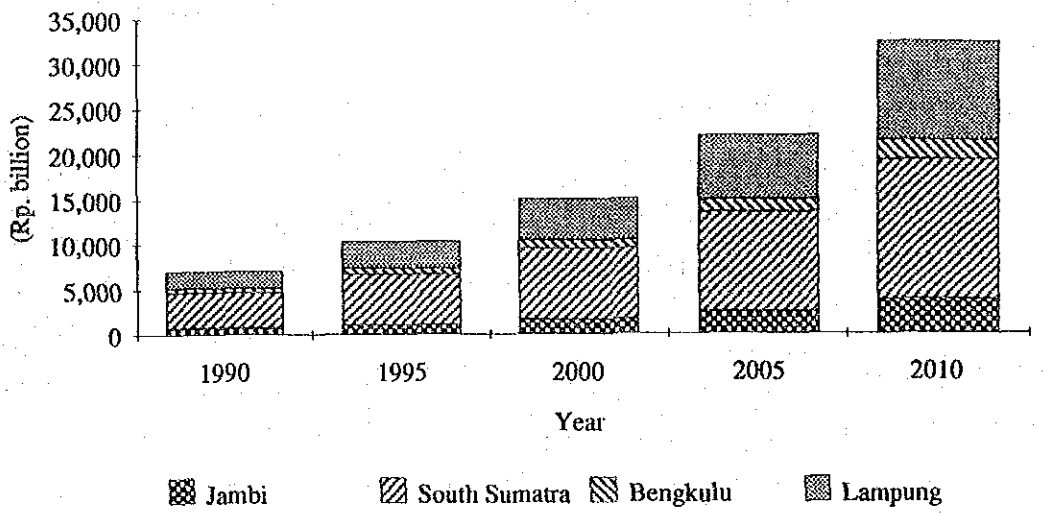


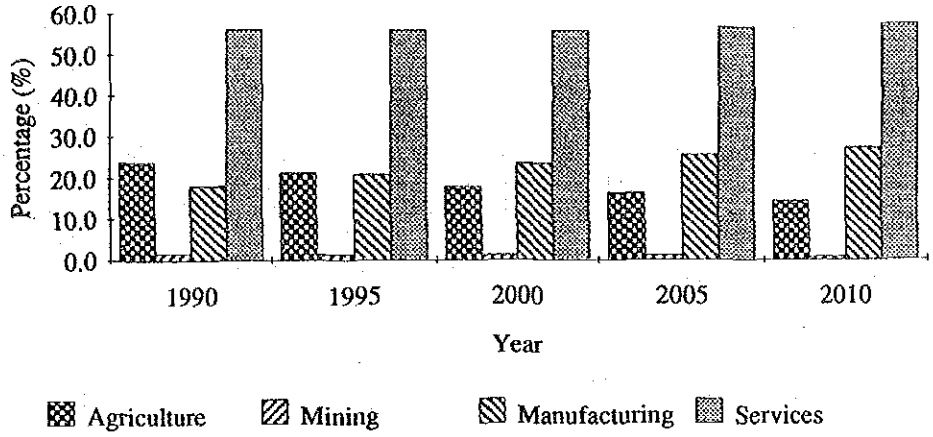
図２．６．２　州別非石油・ガスＧＤＰ

れている。図２．６．３は、非石油・ガスＧＤＰの部門別シェアを示す。

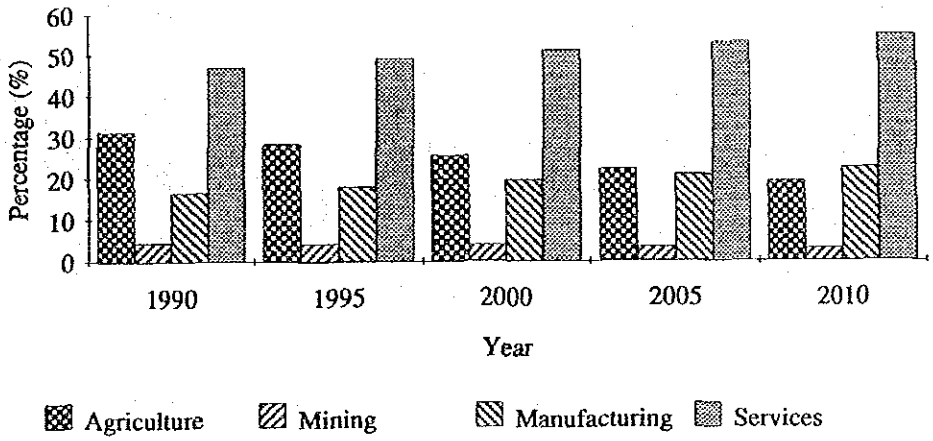
部門ごとの平均シェアとその成長率をかけて計算される、ＧＤＰの成長率に対する各部門の相対的貢献度で分析すると、国家経済における農業部門のこの貢献度は、表２．６．４に示す通り、１９９０－１９９５年の１２．９％から、２００５－２０１０年の８．３％へと低下することになろう。この農業の比較的低い貢献度は、ＧＤＰの中程度の成長率のためである。一方、製造業部門は、全期間約３０％で、ＧＤＰの成長に貢献することになろう。サービス業部門の貢献度は、この部門の成長率がＧＤＰ全体の成長率と同じため、ＧＤＰシェアとほぼ同じになろう。

南部スマトラ地域の経済では、農業部門のＧＤＰ成長に対する貢献度は、１９９０－１９９５年の２１．６％から２００５－２０１０年の１２．９％へと急激に低下することになろう。一方、製造業部門は、非常に高い成長率とそれに伴うＧＤＰシェアの増加により、相対的貢献度は、１９９０－１９９５年の２１．１％から２００５－２０１０年の２６．２％へと５％上昇するであろう。この現象は、ジャンビ州、南スマトラ州、ランポン州で顕著である。他の２州（ジャンビ州、ランポン州）と国全体の数字に比べると、南スマトラ州とベンクル州の鉱業部門の相対的貢献度は相当なものである。

(A) Nation



(B) Region



(C) Jambi

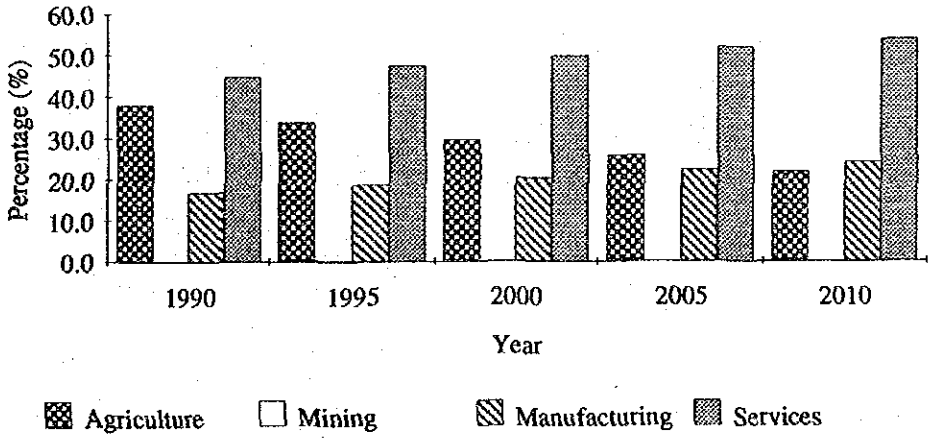
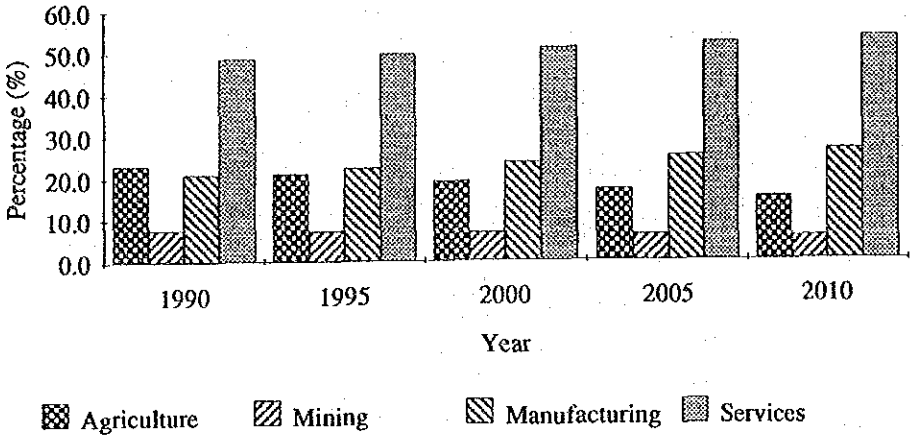
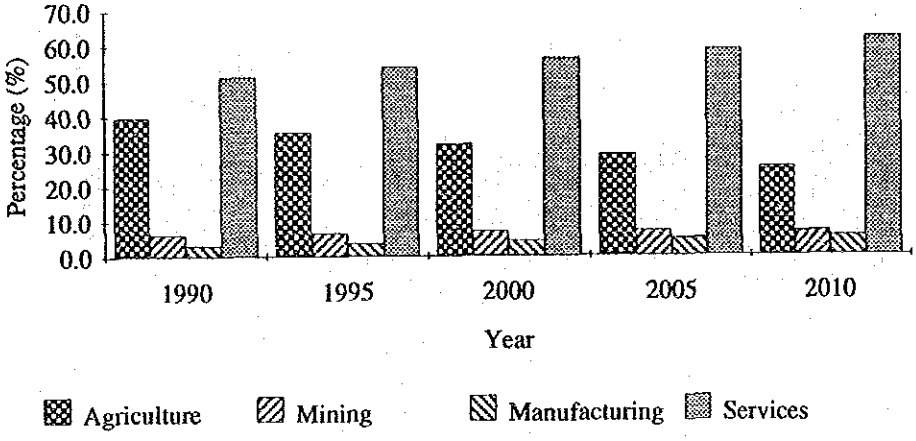


図２．６．３　産業別の非石油・ガスＧＤＰの割合

(D) South Sumatra



(E) Bengkulu



(F) Lampung

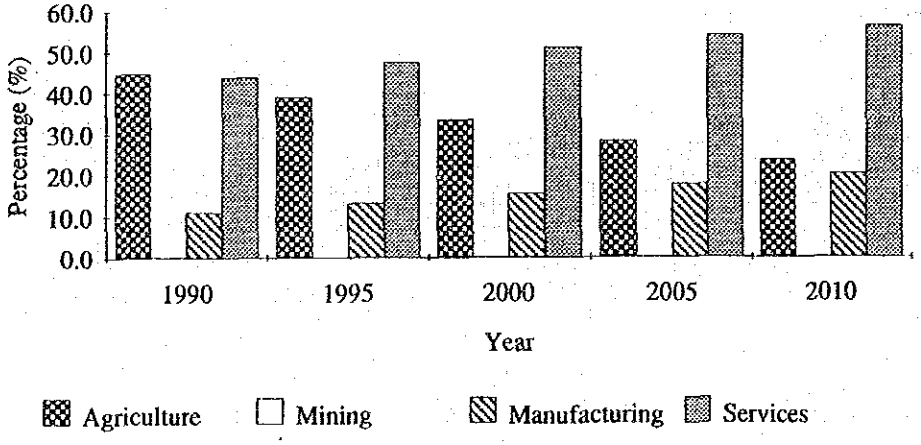


表２．６．４　ＧＤＰ成長率に対する産業別相対的貢献度

Province	Sector	Relative Contribution (%)				
		1990-1995	1995-2000	2000-2005	2005-2010	1990-2010
Jambi	Agriculture	24.4	21.0	17.6	14.4	19.4
	Mining	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
	Manufacturing	22.3	23.9	26.4	28.0	25.4
	Services	53.2	55.1	55.9	57.5	55.2
	GDP	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
South Sumatra	Agriculture	16.1	13.8	12.0	10.0	12.8
	Mining	6.0	5.4	4.6	3.8	4.9
	Manufacturing	25.5	26.8	28.6	29.9	27.8
	Services	52.4	54.0	54.8	56.3	54.5
	GDP	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Bengkulu	Agriculture	26.9	24.8	21.8	17.8	22.9
	Mining	8.0	7.8	7.6	6.4	7.1
	Manufacturing	5.2	5.7	6.2	6.3	5.8
	Services	60.0	61.7	64.4	69.5	64.2
	GDP	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Lampung	Agriculture	27.8	22.8	18.3	14.9	21.1
	Mining	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	Manufacturing	17.2	19.7	21.9	25.0	21.4
	Services	54.8	57.4	59.7	60.0	57.5
	GDP	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Region	Agriculture	21.6	18.4	15.6	12.9	17.0
	Mining	3.6	3.1	2.6	2.1	2.8
	Manufacturing	21.1	22.7	24.4	26.2	23.8
	Services	53.8	55.8	57.4	58.7	56.4
	GDP	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Nation	Agriculture	12.9	11.4	9.9	8.3	10.7
	Mining	1.1	0.7	0.5	0.4	0.6
	Manufacturing	29.9	32.0	31.7	31.7	30.8
	Services	56.0	55.8	57.9	59.6	57.8
	GDP	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Remarks: Services sector includes all sectors other than the Agriculture, Mining and Manufacturing sectors.

２．６．２　人口

（１）予測方法

計画期間中の全体の人口フレームワークの基礎として、まず国の人口を予測することから始める。このためには、１９９０年の国の人口統計を更新して、インドネシア大学の人口研究所が行った予測を与件として用いる。できるだけ正確に人口を予測するために、ＧＤＰの予測と同様、２０年の計画期間を５年ごとに区分している。１９９０年の人口調査の数字を、

今後の予測の基準として設定した。

次に、北部スマトラと南部スマトラからなるスマトラ全体の人口増加率（年率）を、１９９０－９５年には国の平均より１％高くなると仮定し、その後徐々にその差を縮小し、２００５－２０１０年には０．９４％まで縮まると仮定する。北部スマトラ地域総合開発計画調査（ＬＴＡ－７８）時の予測にいくらかの修正を加えたものを参考にし、５年ごとの人口増加率及び北部と南部スマトラ両方の人口シェアを考慮して、南部スマトラ地域の総人口を予測する。

南部スマトラ地域の総人口が出れば、次の要素に基づいて、各州の人口を予測する。

１）政策及び自発的移住を含む過去の人口調査（１９６１年、１９７１年、１９８０年、１９９０年）に基づく過去の人口増加の傾向。

２）現在及び今後の移住政策、例えば、ランポン州及び近い将来におけるベンクル州の政策移住の中止。

３）各州で実施される開発シナリオと開発戦略によって生じるであろう産業構造の転換とそれに伴う雇用機会の変化を反映する人口移動。

（２）人口予測

インドネシア大学人口研究所の予測によれば、国全体の年間人口増加率は、１９８０－１９９０年には１．９７％を記録したが、１９９０－９５年の１．６４％から２００５－２０１０年の１．０４％へと低下すると予測される。表２．６．５に示す通り、国の総人口は、２０１０年には２億３，３３１万５，０００人になると推定される。国よりも高い人口増加率のスマトラ（全体）は、その人口が１９９０年の３，６４５万５，０００人（国の総人口の２０．３％）から２０１０年の５，７３１万２，０００人（同２４．６％）へ増加すると予測される。

次に、継続的に移民が流入してくることもあり、１９９０－９５年の南部スマトラ地域の人口増加率は、同期間の国の人口増加率よりも８０％高い、２．９５％と予測される。その後の人口増加率は徐々に減少し、２００５－２０１０年には２．０１％へ減少すると予測される。これは、それでも国の人口増加率１．０４％のほぼ２倍となる。この人口の大幅な増加によって、南部スマトラ地域の人口は、１９９０年の１，５４７万８，０００人から２０１０年の２，４９６万人へ増加すると予測される。一方、北部スマトラ地域の人口は、南部スマトラ地域の増加率よりはいくぶん低く、１９９０年の２，０９７万７，０００人から２０１０年の３，２３５万２，０００人へ増加することが予測される。全国の人口に対するシェアという点

表2．6．5　人口フレームワーク

(A) Population

Province	Population (1,000)				
	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	2,016	2,369	2,727	3,079	3,435
South Sumatra	6,277	7,294	8,309	9,287	10,254
Bengkulu	1,179	1,411	1,618	1,817	2,018
Lampung	6,006	6,825	7,613	8,410	9,253
Southern Sumatra	15,478	17,899	20,267	22,593	24,960
Nouthern Sumatra	20,977	23,676	26,488	29,360	32,352
Sumatra	36,455	41,575	46,755	51,953	57,312
Indonesia	179,322	194,516	208,828	221,552	233,315

(B) Annual Growth Rate of Population

Province	Annual Growth Rate (%)				
	1990-1995	1995-2000	2000-2005	2005-2010	1990-2010
Jambi	3.28	2.85	2.46	2.21	2.70
South Sumatra	3.05	2.64	2.25	2.00	2.48
Bengkulu	3.65	2.78	2.35	2.12	2.72
Lampung	2.59	2.21	2.01	1.93	2.18
Southern Sumatra	2.95	2.52	2.20	2.01	2.42
Nouthern Sumatra	2.45	2.27	2.08	1.96	2.19
Sumatra	2.66	2.38	2.13	1.98	2.29
Indonesia	1.64	1.43	1.19	1.04	1.32

(C) Population Share

Province	Population Share (%)									
	1990		1995		2000		2005		2010	
Jambi	1.1	(13.0)	1.2	(13.2)	1.3	(13.5)	1.4	(13.6)	1.5	(13.7)
South Sumatra	3.5	(40.6)	3.8	(40.8)	4.0	(41.0)	4.2	(41.1)	4.4	(41.1)
Bengkulu	0.7	(7.6)	0.7	(7.9)	0.8	(8.0)	0.8	(8.1)	0.9	(8.1)
Lampung	3.3	(38.8)	3.5	(38.1)	3.6	(37.5)	3.8	(37.2)	4.0	(37.1)
Southern Sumatra	8.6	(100.0)	9.2	(100.0)	9.7	(100.0)	10.2	(100.0)	10.7	(100.0)
Nouthern Sumatra	11.7		12.2		12.7		13.3		13.9	
Sumatra	20.3		21.4		22.4		23.4		24.6	
Indonesia	100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	

では、南部スマトラ地域は、１９９０年の８．６％から２０１０年の１０．７％へ着実に増加する一方、北部スマトラ地域は、１９９０年の１１．７％から２０１０年の１３．９％へ増加することになる。

南部スマトラ地域内部の人口増加に関しては、州の増加率はおおむね、着実に低下すると予測されるが、国の増加率と比べると相当高い。人口増加パターンの凸型の軌跡に従い、ジャンビ州の人口増加率は、人口増加パターンに見られる中高の経路を通って、１９９０－９５年の３．２８％から２００５－２０１０年の２．２１％へ低下すると予測される。南スマトラ州の人口増加率は、１９９０－９５年の３．０５％から２００５－２０１０年の２．００％へほぼ直線的に低下することが予測される。しかし、南部スマトラ地域における南スマトラ州の人口シェアはほとんど変わらず、計画期間中４０％を占めるであろう。ベンクル州の人口増加率は、主として移民受入れと短期的な州の移住支援政策のために、１９００－９５年には同地域で最高の３．６５％と予測されるが、２００５－２０１０年には２．１２％に低下するであろう。ランポン州は、おそらく政策移住の中止により、１９８０－９０年の年人口増加率が２．６５％へ急減しており、他の３州と比べて緩やかに人口増加することが予測される。人口増加の凹型の軌跡が予想される。この相対的に緩やかな人口増加のために、ランポン州の南部スマトラ地域における人口シェアは、１９９０年の３８．８％から２０１０年の３７．１％へ減少すると予測される。図２．６．４は、州別の人口予測である。

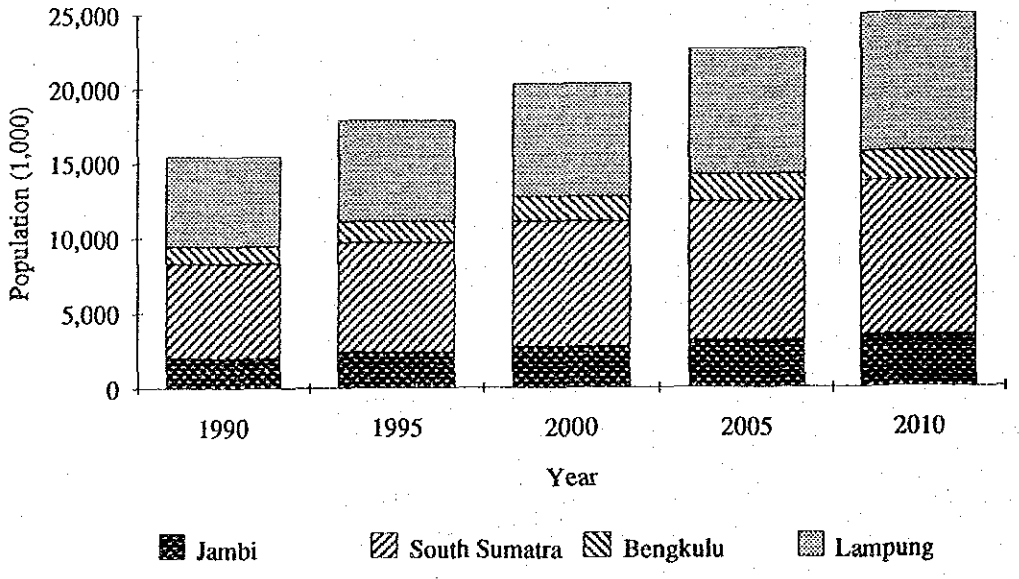


図２．６．４　州別人口

２．６．３　１人当りＧＤＰ

石油・ガスを含む１人当りＧＤＰと石油・ガスを除く１人当りＧＤＰは、ＧＤＰ予測と人口予測から計算される。１人当りＧＤＰは、経済水準や福祉のレベルを表す重要な経済指標の１つとして認められているが、州の所得レベルを正確に示すことはできない。これは、石油・ガスを生産する州では特にそうであり、石油・ガスを含むＧＤＰの場合は過大評価となり、石油・ガスを除くＧＤＰでは過小評価となる。石油・ガスからの収益は、直接国庫に入る一方、石油・ガス部門からの付加価値の一部は、州の経済に便益を与え、溢出効果と雇用機会を拡大する。上記を考慮した上で、南部スマトラ地域の１人当りＧＤＰを示した表２．６．６を見て頂きたい。

南部スマトラ地域の石油・ガスを除く１人当りＧＤＰは、１９８３年固定価格で、１９９０年には４６万ルピアであったが、２０１０年には１３０万ルピアになると予測される。同地域の１人当りＧＤＰの水準は、１９９０年には国の平均の８８％であったが、２０１０年には国の平均と同じレベルに達すると予測される。１９９０年には国の平均の６１％の水準で

表２．６．６　一人当りＧＤＰ

(A) Per Capita GDP without Oil/Gas

(1983 constant prices)

Province	Per Capita GDP (Rp. million)				
	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	0.38 (0.71)	0.47 (0.74)	0.61 (0.78)	0.81 (0.82)	1.11 (0.86)
South Sumatra	0.64 (1.21)	0.76 (1.20)	0.94 (1.19)	1.18 (1.18)	1.51 (1.17)
Bengkulu	0.39 (0.73)	0.48 (0.75)	0.61 (0.77)	0.79 (0.79)	1.06 (0.82)
Lampung	0.32 (0.61)	0.43 (0.68)	0.60 (0.76)	0.84 (0.84)	1.18 (0.91)
Southern Sumatra	0.46 (0.88)	0.58 (0.90)	0.74 (0.94)	0.97 (0.97)	1.30 (1.00)
Indonesia	0.53 (1.00)	0.64 (1.00)	0.79 (1.00)	1.00 (1.00)	1.30 (1.00)

(B) Per Capita GDP with Oil/Gas

(1983 constant prices)

Province	Per Capita GDP (Rp. million)				
	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	0.47 (0.73)	0.57 (0.74)	0.71 (0.76)	0.91 (0.79)	1.21 (0.82)
South Sumatra	0.82 (1.27)	0.95 (1.24)	1.13 (1.22)	1.39 (1.20)	1.74 (1.18)
Bengkulu	0.39 (0.60)	0.48 (0.62)	0.61 (0.65)	0.79 (0.68)	1.06 (0.72)
Lampung	0.32 (0.50)	0.43 (0.56)	0.60 (0.64)	0.84 (0.72)	1.18 (0.80)
Southern Sumatra	0.55 (0.85)	0.66 (0.87)	0.83 (0.90)	1.07 (0.93)	1.40 (0.95)
Indonesia	0.64 (1.00)	0.77 (1.00)	0.93 (1.00)	1.16 (1.00)	1.45 (1.00)

Remark : Figures in parentheses are the ratios for the national per capita GDP.

しかなかったランポン州では、はっきりと改善が予測され、２０１０年にはその９１％の水準に達するであろう。一方、南スマトラ州は、１９９０年の対国平均１２１％から２０１０年の１１７％へ、その規模はいくぶん減少するであろう。ジャンビ州とベンクル州も、１人当りＧＤＰのレベルは改善され、国との格差が縮小することになろう。従って、南部スマトラ地域全体としては、１人当りの非石油・ガスＧＤＰを国のレベルと等しくし、同地域内部の所得格差を縮小するという、目標に定めた２つの量的なターゲットを達成することになろう。図２．６．５は、州１人当りの非石油・ガスＧＤＰの国平均に対する比率を示すものである。

２．６．４　労働力人口と雇用

労働力人口とは、「１０歳以上で、雇用人口として分類される就業者、有職ではあるが一時的に休業している者、及び仕事を有しておらず、求職している者の人口」と定義される。従って、この人口は、失業人口も含んでいる。失業率は、１９８９年の労働力統計から取ったもので、計画期間中は一定であると仮定される。ジャンビ州では２．３％、南スマトラ州では３．１％、ベンクル州では２．４％、ランポン州では１．２％、そして国全体では２．８％である。１９９０年の各州及び国の労働力人口は、上記統計と１９９０年の人口調査に基づい

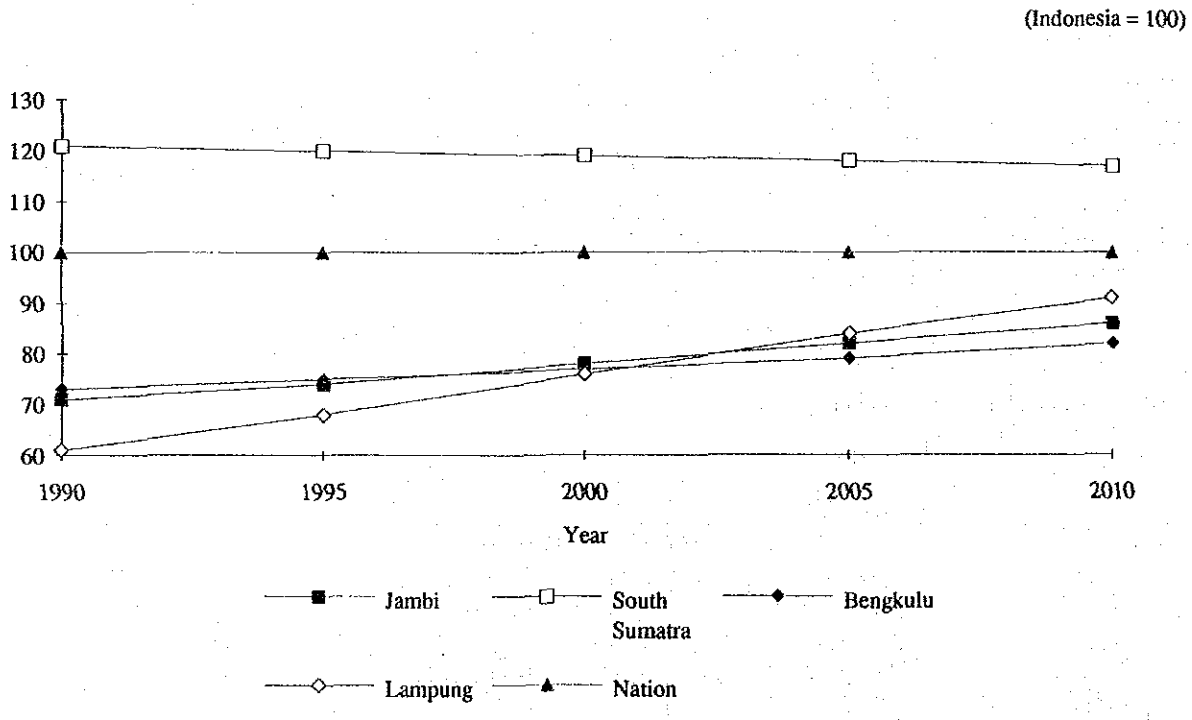


図２．６．５　国平均に対する州別非石油・ガスＧＤＰ比率

て予測される。この労働力人口は、一部インドネシア大学人口研究所が行った予測結果を用いて、予測される。

国全体の労働力人口は、１９９０年には7，５１５万5，０００人と推定されるが、表2．6．7で示す通り、２０１０年には１億2，１７０万1，０００人に達すると予測される。この年間増加率は、１９９０－１９９５年の2．9％から２００５－２０１０年の1．9％へ徐々に低下すると予測される。一方、南部スマトラ地域の労働力人口は、１９９０年の６０３万4，０００人（推定）から、２０１０年の1，２３７万2，０００人へ増加すると予測される。南部スマトラ地域の労働力人口の年間増加率は、同地域の高い人口増加と活発そうな雇用吸収力により、国より１％高くなると予測される。上記推定により、国の総人口に対する労働力人口の割合は、１９９０年の４１．９％から２０１０年の５２．２％へ急激に増加する一方、南部スマトラ地域のそれは、１９９０年の３９．０％から２０１０年の４９．６％へ増加するであろう。

表2．6．7　労働力人口

Province	Econonically Active Population (1,000)					Annual Growth Rate (%)					Share in Population (%)				
	1990	1995	2000	2005	2010	1990-1995	1995-2000	2000-2005	2005-2010	1990-2010	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	793	997	1,228	1,466	1,713	4.7	4.3	3.6	3.2	3.9	39.4	42.1	45.0	47.6	49.9
Southe Sumatra	2,439	3,048	3,721	4,398	5,099	4.6	4.1	3.4	3.0	3.8	38.9	41.8	44.8	47.4	49.7
Bengkulu	461	592	724	864	1,005	5.1	4.1	3.6	3.1	4.0	39.1	42.0	44.8	47.5	49.8
Lampung	2,340	2,832	3,355	3,952	4,557	3.9	3.4	3.3	2.9	3.4	39.0	41.5	44.1	47.0	49.2
Region	6,034	7,469	9,028	10,679	12,372	4.4	3.9	3.4	3.0	3.7	39.0	41.7	44.5	47.3	49.6
Indonesia	75,155	86,746	98,817	110,661	121,701	2.9	2.6	2.3	1.9	2.4	41.9	44.6	47.3	49.9	52.2

２．６．５　雇用

上記労働力統計を用いて、州別及び部門別の雇用を予測する。非石油・ガスＧＤＰに対応した雇用の予測を行うために、石油・ガス関連部門の雇用を各産業の雇用状況に基づいて、以下のように仮定する。

１）国全体では、鉱業部門のうち３％、製造業部門のうち４．５％が、石油・ガス部門に関連する雇用人口である。

２）南部スマトラ地域では、鉱業部門及び製造業部門のうち共に２．５％が、石油・ガス部門に関連する雇用人口である。

上記仮定によれば、国の雇用は、表２、６、８に示す通り、１９９０年の７，３０８万１，０００人（推定）から、２０１０年の１億１，８３４万２，０００人へと６０％以上、（４，５２６万１，０００人）増加することになろう。部門別では、１９９０年には、農業部門が５６．５％、製造業部門が１０％弱のシェアとなろう。農業部門は、２０年間に１，５５５万７，０００人の新規雇用を提供することになるが、そのシェアは、雇用機会の伸びが緩慢なために、４８．０％へ低下することになろう。１９９０年に７０１万４，０００人の雇用を吸収する製造業部門は、２０１０年には１，３０１万人の雇用機会を提供することになろう。これは、２０年間で８５％の増加となる。サービス業部門も、その全雇用に対する割合を１９９０年の３３．３％から２０１０年の４０．５％へ拡大することになろう。一方、南部スマトラ地域の雇用は、１９９０年の５９０万１，０００人から２０１０年の１，２０９万８，０００人へと倍増することになろう。南部スマトラ地域の部門別雇用状況を国のそれと比較してみると、同地域は、現在労働力の７０％以上を農業部門で吸収しているという点で目立っている。特に、ジャンビ州（７５．４％）、ベンクル州（７８．３％）、ランポン州（７７．８％）がそうである。南部スマトラ地域における６１９万７，０００人の新規雇用増加のうち、農業部門は、２０１０年に３２７万５，０００人の雇用、つまり同地域の総雇用の５２．９％を吸収することになろう。一方、製造業部門の

表２．６．８　州別産業別雇用数

Province	Sector	Employment (1,000)					Annual Growth Rate(%)					Percentage Share (%)				
		1990	1995	2000	2005	2010	'90-'95	'95-'00	'00-'05	'05-'10	'90-'10	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	Agriculture	584	714	857	1,008	1,157	4.1	3.7	3.3	2.8	3.5	75.4	73.4	71.4	70.4	69.2
	Mining	6	6	7	8	10	2.3	2.5	2.8	3.0	2.6	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
	Manufacturing	27	38	51	70	94	6.7	6.5	6.3	6.1	6.4	3.5	3.9	4.3	4.9	5.6
	Services	158	215	284	346	412	6.4	5.7	4.0	3.6	4.9	20.3	22.1	23.7	24.2	24.6
	Total	775	974	1,200	1,432	1,673	4.7	4.3	3.6	3.2	3.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
South Sumatra	Agriculture	1,559	1,852	2,179	2,489	2,789	3.5	3.3	2.7	2.3	2.9	66.0	62.7	60.4	58.4	56.4
	Mining	79	94	110	125	139	3.6	3.1	2.6	2.2	2.9	3.3	3.2	3.0	2.9	2.8
	Manufacturing	126	176	242	314	405	7.0	6.5	5.4	5.2	6.0	5.3	6.0	6.7	7.4	8.2
	Services	599	832	1,077	1,335	1,610	6.8	5.3	4.4	3.8	5.1	25.4	28.2	29.9	31.3	32.6
	Total	2,364	2,954	3,606	4,263	4,942	4.6	4.1	3.4	3.0	3.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Bengkulu	Agriculture	353	442	527	617	712	4.6	3.6	3.2	2.9	3.6	78.3	76.4	74.6	73.2	72.6
	Mining	1	1	2	2	3	3.5	4.2	4.5	4.7	4.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3
	Manufacturing	9	13	18	24	31	7.5	6.5	6.0	5.4	6.3	2.0	2.2	2.5	2.8	3.2
	Services	88	122	160	200	235	6.8	5.6	4.5	3.3	5.0	19.6	21.1	22.7	23.7	24.0
	Total	450	578	707	843	981	5.1	4.1	3.6	3.1	4.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Lampung	Agriculture	1,798	2,068	2,294	2,577	2,913	2.8	2.1	2.4	2.5	2.4	77.8	73.9	69.2	66.0	64.7
	Mining	8	9	11	14	17	2.2	4.5	4.4	3.4	3.6	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4
	Manufacturing	73	113	176	252	321	9.2	9.1	7.5	4.9	7.7	3.2	4.1	5.3	6.5	7.1
	Services	433	607	834	1,061	1,252	7.0	6.6	4.9	3.4	5.5	18.7	21.7	25.2	27.2	27.8
	Total	2,312	2,798	3,315	3,905	4,502	3.9	3.4	3.3	2.9	3.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Region	Agriculture	4,295	5,076	5,856	6,691	7,570	3.4	2.9	2.7	2.5	2.9	72.8	69.5	66.3	64.1	62.6
	Mining	94	111	130	149	168	3.4	3.2	2.8	2.4	2.9	1.6	1.5	1.5	1.4	1.4
	Manufacturing	235	340	486	660	851	7.7	7.4	6.3	5.2	6.6	4.0	4.7	5.5	6.3	7.0
	Services	1,278	1,777	2,356	2,942	3,509	6.8	5.8	4.5	3.6	5.2	21.7	24.3	26.7	28.2	29.0
	Total	5,901	7,305	8,828	10,442	12,098	4.4	3.9	3.4	3.0	3.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Nation	Agriculture	41,284	45,872	50,152	53,948	56,841	2.1	1.8	1.5	1.1	1.6	56.5	54.4	52.2	50.1	48.0
	Mining	435	447	464	489	515	0.5	0.8	1.0	1.1	0.8	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4
	Manufacturing	7,014	8,331	9,752	11,388	13,010	3.5	3.2	3.2	2.7	3.1	9.6	9.9	10.1	10.6	11.0
	Services	24,347	29,702	35,721	41,782	47,975	4.1	3.8	3.2	2.8	3.4	33.3	35.2	37.2	38.8	40.5
	Total	73,081	84,351	96,089	107,607	118,342	2.9	2.6	2.3	1.9	2.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Remarks : Excluding employment by oil/gas related industries (mining, manufacturing).

雇用は、２０１０年には、６１万６，０００人増加して８５万１，０００人になろう。これは、新たに創出される雇用の１０％を占めることになる。サービス業部門も、２０１０年には２９．０％を占め、着実に雇用の機会を提供することになろう。

表２．６．２の非石油・ガスＧＤＰ予測と表２．６．８の雇用予測を利用して、非石油・ガスＧＤＰを雇用で割ることによって求められる部門別労働生産性を表２．６．９に示している。国レベルでは、製造業部門の労働生産性は、１９９０年の２４４万ルピア（推定）から、２０１０年の６３５万ルピアへ上昇するであろう。部門別で労働生産性を比較すると、１９９０年における製造業部門（２４４万ルピア）と農業部門（５５万ルピア）の間の労働生産性格差は

表２．６．９　産業別労働生産性

(1983 constant prices)

Province	Sector	Labor Productivity (Rp. million)					Annual Growth Rate(%)				
		1990	1995	2000	2005	2010	'90-'95	'95-'00	'00-'05	'05-'10	'90-'10
Jambi	Agriculture	0.49	0.53	0.58	0.64	0.72	1.4	1.7	2.0	2.4	1.9
	Mining	0.29	0.29	0.30	0.31	0.32	0.2	0.5	0.7	0.5	0.5
	Manufacturing	4.72	5.57	6.60	8.02	9.82	3.4	3.5	4.0	4.1	3.7
	Services	2.15	2.47	2.94	3.77	4.98	2.9	3.5	5.1	5.7	4.3
	Total	0.98	1.15	1.39	1.75	2.28	3.4	3.9	4.7	5.4	4.3
South Sumatra	Agriculture	0.59	0.63	0.68	0.75	0.83	1.4	1.5	1.9	2.2	1.7
	Mining	3.83	4.22	4.73	5.34	6.05	1.9	2.3	2.4	2.5	2.3
	Manufacturing	6.67	7.02	7.59	8.70	10.10	1.0	1.6	2.8	3.0	2.1
	Services	3.25	3.33	3.69	4.27	5.13	0.5	2.1	3.0	3.7	2.3
	Total	1.69	1.89	2.16	2.57	3.14	2.2	2.8	3.5	4.1	3.1
Bengkulu	Agriculture	0.51	0.54	0.60	0.67	0.76	1.2	2.0	2.3	2.5	2.0
	Mining	24.89	34.06	42.27	50.77	57.93	6.5	4.4	3.7	2.7	4.3
	Manufacturing	1.55	1.94	2.39	2.95	3.71	4.7	4.2	4.3	4.6	4.5
	Services	2.64	2.98	3.45	4.21	5.66	2.5	3.0	4.1	6.1	3.9
	Total	1.01	1.17	1.39	1.70	2.18	2.9	3.5	4.1	5.1	3.9
Lampung	Agriculture	0.48	0.56	0.66	0.77	0.88	2.9	3.5	3.1	2.8	3.1
	Mining	0.47	0.52	0.53	0.57	0.68	2.2	0.5	1.5	3.5	1.9
	Manufacturing	2.99	3.43	4.00	4.95	6.88	2.8	3.1	4.4	6.8	4.3
	Services	1.96	2.30	2.77	3.59	4.90	3.3	3.8	5.3	6.4	4.7
	Total	0.84	1.05	1.37	1.81	2.43	4.6	5.4	5.7	6.1	5.5
Region	Agriculture	0.52	0.58	0.65	0.73	0.83	2.0	2.4	2.4	2.5	2.3
	Mining	3.57	4.04	4.58	5.22	5.97	2.5	2.6	2.6	2.7	2.6
	Manufacturing	5.10	5.47	6.00	6.98	8.62	1.4	1.9	3.1	4.3	2.7
	Services	2.63	2.85	3.26	3.96	5.07	1.6	2.7	4.0	5.0	3.3
	Total	1.21	1.41	1.70	2.10	2.68	3.1	3.8	4.4	5.0	4.0
Nation	Agriculture	0.55	0.58	0.62	0.68	0.77	1.0	1.5	1.9	2.4	1.7
	Mining	3.59	4.26	4.75	5.11	5.48	3.5	2.2	1.4	1.4	2.1
	Manufacturing	2.44	3.11	3.98	4.98	6.35	4.9	5.0	4.6	5.0	4.9
	Services	2.18	2.34	2.58	3.00	3.63	1.5	2.0	3.0	3.9	2.6
	Total	1.29	1.47	1.71	2.06	2.56	2.6	3.1	3.7	4.5	3.5

Remarks : Sectoral labor productivity is calculated by dividing non-oil/gas GDP by sectoral employment.

約５倍であるが、２０１０年には８倍以上にさらに拡大するであろう。

南部スマトラ地域では、製造業部門の労働生産性は、１９９０年の５１０万ルピア（国の２倍以上）から、２０１０年の８６２万ルピア（同３５％）へ上昇する。これは、南部スマトラ地域では現在資本集約型産業が主流であるが、今後はより多くの労働集約型事業所を含む産業基地が拡大するであろうことを意味する。同地域の農業と鉱業部門の労働生産性は、国とほとんど同様な傾向で増加することになろう。表２．６．９は、部門別の労働生産性を示している。

２．６．６　カブパテン別マクロ経済指標

優先開発地区を選定する際の分析・計画のために、予測された州レベルのマクロ経済指標のうちのいくつかを、さらに２５のカブパテン／コタマジャ別に分解する。これには、表２．６．１０と表２．６．１１で要約されている人口及び非石油・ガスＧＤＰの予測が含まれている。両予測とも各カブパテン／コタマジャの開発のポテンシャル、制約及び方向を十分に考慮して、行われている。

２．６．７　所要投資額

地域開発計画を策定する場合に総投資額を考慮することが必要なため、ここでは、マクロ経済から見た、南部スマトラ地域の今後の開発に対する所要投資額について述べる。地域別の公共及び民間投資を系統的に、そして整合的にカバーする統計データが欠如しているので、調査団は、まず、過去数年間の総固定資本形成として南部スマトラ地域に実際に振り向けられた資金額の推定を試みた。次に、この推定に基づき、ＩＣＯＲ（限界資本・産出高比率）のコンセプトを利用して、目標とするＧＤＰの成長を達成するために必要とされる今後の資本投資額を算出する。

ＢＡＰＰＥＮＡＳ（国家開発計画庁）、大蔵省、ＢＫＰＭ（投資調整庁）と協力して、調査団は、表２．６．１２に示す通り、南部スマトラ地域における実際の投資額を推定した。この推定によれば、１９８５－１９８９年の同地域の開発に向けられた投資総額は、１３兆３，０００億ルピアとなり、そのうち３兆５，０００億ルピア（２６．０％）が中央政府及び地方政府からのものであり、９兆８，０００億ルピア（７４．０％）が民間部門からのものである。地方政府がファイナンスした投資額は、同期間の公共部門のわずか１．５％（５３０億ルピア）でしかない。表２．６．１２に示す推定に基づき、ＩＣＯＲを使用して、調査団は、目標とするＧＤＰの成長を実現するために必要な投資額を予測しようと試みた。ＩＣＯＲは、

表２．６．１０　カブパテン別人口、人口増加率及び人口の割合

Province	No.	Kabupaten	Population (1,000)					Annual Growth Rate(%)					Percentage Share (%)					Land Area	Population Density (Pop./km2)				
			1990	1995	2000	2005	2010	'90-'95	'95-'00	'00-'05	'05-'10	'90-'10	1990	1995	2000	2005	2010	(km2)	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	1	Krinci	279	301	323	347	373	1.50	1.47	1.44	1.42	1.46	13.8	12.7	11.9	11.3	10.9	4,200	66	72	77	83	89
	2	S. Banko	350	427	505	582	658	4.06	3.40	2.87	2.48	3.20	17.4	18.0	18.5	18.9	19.2	14,200	25	30	36	41	46
	3	B. Hari	324	390	455	519	577	3.76	3.17	2.64	2.15	2.93	16.1	16.4	16.7	16.9	16.8	11,130	23	35	41	47	52
	4	T. Jabung	361	395	430	468	509	1.78	1.73	1.70	1.68	1.72	17.9	16.7	15.8	15.2	14.8	10,200	35	39	42	46	50
	5	B. Tebo	361	430	497	563	682	3.54	2.94	2.54	2.34	2.84	17.9	18.1	18.2	18.3	18.4	13,500	27	32	37	42	47
	6	Kodya Jambi	340	427	516	599	636	4.65	3.85	3.06	2.73	3.57	16.9	18.0	18.9	19.5	20.0	206	1,651	2,072	2,502	2,910	3,330
		Total	2,015	2,369	2,727	3,079	3,435	3.28	2.85	2.46	2.21	2.70	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	53,436	38	44	51	58	64
South Sumatra	7	O.K. Ulu	964	1,083	1,203	1,321	1,437	2.35	2.12	1.89	1.70	2.01	15.4	14.9	14.5	14.2	14.0	10,408	93	104	116	127	138
	8	O.K. Ilir	771	878	990	1,104	1,218	2.62	2.43	2.21	1.98	2.31	12.3	12.0	11.9	11.9	11.9	21,658	36	41	46	51	56
	9	M. Enim	582	666	752	842	933	2.71	2.48	2.27	2.08	2.38	9.3	9.1	9.1	9.1	9.1	9,575	61	70	79	88	97
	10	Lahat	602	670	757	840	926	2.41	2.24	2.09	1.97	2.18	9.6	9.3	9.1	9.0	9.0	4,034	149	168	188	208	230
	11	M. Rawas	512	600	692	785	881	3.24	2.87	2.56	2.34	2.75	8.2	8.2	8.3	8.5	8.6	21,513	24	28	32	36	41
	12	M. Banyuasin	884	1,069	1,257	1,446	1,628	3.88	3.30	2.83	2.41	3.10	14.1	14.7	15.1	15.6	15.9	25,664	34	42	49	56	63
	13	Bangka	514	579	644	707	770	2.41	2.15	1.90	1.71	2.04	8.2	7.9	7.7	7.6	7.5	11,614	44	50	55	61	66
	14	Belitung	193	212	232	253	274	1.92	1.82	1.73	1.64	1.78	3.1	2.9	2.8	2.7	2.7	4,532	43	47	51	56	61
	15	Kodya Palembang	1,141	1,401	1,637	1,829	2,009	4.19	3.17	2.24	1.90	2.87	10.2	19.2	19.7	19.7	19.6	224	5,094	6,253	7,310	8,165	8,970
	16	Kodya P. Pinang	113	128	144	160	176	2.54	2.34	2.14	1.94	2.24	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	32	3,536	4,009	4,500	3,003	5,507
		Total	6,277	7,294	8,309	9,287	10,254	3.05	2.64	2.25	2.00	2.48	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	109,254	57	67	76	85	94
Bengkulu	17	B. Selatan	298	334	373	416	457	2.27	2.25	2.22	1.87	2.15	25.3	23.7	23.0	22.9	22.6	5,949	50	56	63	70	77
	18	R. Lebong	368	415	466	521	573	2.41	2.35	2.27	1.94	2.24	31.2	29.4	28.8	28.7	28.4	4,110	90	101	113	127	140
	19	B. Utara	343	429	502	566	634	4.61	3.20	2.42	2.30	3.13	29.1	30.4	31.1	31.2	31.4	9,585	36	45	52	59	66
	20	Kodya Bengkulu	170	233	277	314	354	6.49	3.50	2.53	2.42	3.72	14.4	16.5	17.1	17.3	17.5	145	1,175	1,609	1,911	2,165	2,440
		Total	1,179	1,411	1,618	1,817	2,018	3.65	2.78	2.35	2.12	2.72	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	19,789	60	71	82	92	102
Lampung	21	L. Selatan	1,825	1,972	2,126	2,288	2,470	1.56	1.52	1.48	1.54	1.52	30.4	28.9	27.9	27.2	26.7	6,649	274	297	320	344	372
	22	L. Tengah	1,901	2,034	2,166	2,297	2,444	1.37	1.26	1.18	1.25	1.26	31.6	29.8	28.4	27.3	26.4	9,190	207	221	236	250	266
	23	L. Utara	1,335	1,733	2,090	2,433	2,777	5.35	3.82	3.08	2.68	3.73	22.2	25.4	27.5	28.9	30.0	14,418	93	120	145	169	193
	24	L. Barat	308	340	373	413	452	1.97	1.87	2.06	1.85	1.94	5.1	5.0	4.9	4.9	4.9	4,951	62	69	75	83	91
	25	Kodya B. Lampung	637	746	858	979	1,110	3.22	2.84	2.68	2.54	2.82	10.6	10.9	11.3	11.6	12.0	169	3,767	4,414	5,077	5,795	6,570
		Total	6,006	6,825	7,613	8,410	9,253	2.59	2.21	2.01	1.93	2.18	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	35,377	170	193	215	238	262
Southern Sumatra			15,478	17,899	20,267	22,593	24,960	2.95	2.52	2.20	2.01	2.42						217,856	71	82	93	104	115

表２．６．１１　カブパテン別非石油・ガスＧＤＰ

(1983 constant prices)

Province	No	Kabupaten	Non-Oil/Gas GDP (Rp. billion)					Annual Growth Rate(%)					Percentage Share (%)					Per Capita GDP (Rp. million)				
			1990	1995	2000	2005	2010	'90-'95	'95-'00	'00-'05	'05-'10	'90-'10	1990	1995	2000	2005	2010	1990	1995	2000	2005	2010
Jambi	1	Krinci	61	78	102	137	192	5.0	5.5	6.1	6.9	5.9	8.1	7.0	6.1	5.5	5.0	0.22	0.26	0.32	0.40	0.51
	2	S. Banko	119	165	230	327	484	6.7	6.9	7.3	8.2	7.3	15.7	14.7	13.7	13.0	12.7	0.34	0.38	0.45	0.56	0.71
	3	B. Hari	133	197	294	440	656	8.2	8.4	8.4	8.3	8.3	17.5	17.5	17.6	17.6	17.2	0.41	0.50	0.65	0.85	1.11
	4	T. Jabung	128	188	279	416	612	8.0	8.2	8.3	8.0	8.1	17.0	16.8	16.7	16.6	16.1	0.35	0.48	0.65	0.89	1.22
	5	B. Tebo	114	154	214	306	448	6.2	6.8	7.4	7.9	7.1	15.1	13.7	12.8	12.2	11.8	0.32	0.36	0.43	0.54	0.68
	6	Kodya Jambi	201	340	552	881	1,417	11.1	10.1	9.8	10.0	10.3	26.6	30.3	33.0	35.1	37.2	0.59	0.80	1.07	1.47	2.28
		Total	756	1,122	1,672	2,508	3,809	8.2	8.3	8.5	8.7	8.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.38	0.47	0.61	0.81	1.11
South Sumatra	7	O.K. Ulu	324	408	526	687	924	4.7	5.2	5.5	6.1	5.4	8.1	7.3	6.7	6.3	6.0	0.34	0.38	0.44	0.52	0.64
	8	O.K. Ilir	276	348	452	597	813	4.7	5.4	5.7	6.4	5.5	6.9	6.2	5.8	5.4	5.2	0.36	0.40	0.46	0.54	0.62
	9	M. Enim	244	309	404	535	723	4.8	5.5	5.8	6.2	5.6	6.1	5.5	5.2	4.9	4.7	0.42	0.46	0.54	0.64	0.75
	10	Lahat	248	321	420	554	738	5.3	5.5	5.7	5.9	5.6	6.2	5.8	5.4	5.1	4.8	0.41	0.47	0.55	0.66	0.80
	11	M. Rawas	216	295	406	564	791	6.4	6.6	6.8	7.0	6.7	5.4	5.3	5.2	5.1	5.1	0.42	0.49	0.59	0.72	0.90
	12	M. Banyuasin	729	1,082	1,467	2,097	3,024	7.2	7.3	7.4	7.6	7.4	18.2	18.5	18.8	19.1	19.5	0.82	0.97	1.17	1.45	1.87
	13	Bangka	428	526	665	861	1,131	4.2	4.8	5.3	5.6	5.0	10.7	9.4	8.5	7.9	7.3	0.83	0.91	1.03	1.22	1.47
	14	Belitung	124	184	195	253	342	4.4	4.8	5.4	6.2	5.2	3.1	2.8	2.5	2.3	2.2	0.64	0.73	0.84	1.00	1.24
	15	Kodya Palembang	1,345	2,002	3,134	4,621	6,760	9.1	8.5	8.1	7.9	8.4	33.6	37.4	40.1	42.1	43.6	1.18	1.49	1.91	2.53	3.60
	16	Kodya P. Pinang	68	98	139	196	272	7.6	7.2	7.1	6.8	7.2	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8	0.60	0.77	0.97	1.22	1.53
		Total	4,004	5,573	7,807	10,965	15,518	6.8	7.0	7.0	7.2	7.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.64	0.76	0.94	1.18	1.51
Bengkulu	17	B. Selatan	102	148	219	326	490	7.7	8.1	8.3	8.5	8.1	22.5	22.0	22.3	22.7	22.9	0.34	0.44	0.59	0.78	1.07
	18	R. Lebong	152	218	316	461	674	7.5	7.7	7.8	7.9	7.7	33.5	32.4	32.3	32.2	31.5	0.41	0.53	0.68	0.88	1.18
	19	B. Utara	109	149	207	295	426	6.5	6.8	7.3	7.6	7.0	24.0	22.1	21.2	20.6	19.9	0.32	0.35	0.41	0.52	1.67
	20	Kodya Bengkulu	91	158	238	350	549	11.8	8.5	8.0	9.4	9.4	20.0	23.5	24.3	24.5	25.7	0.53	0.68	0.86	1.12	1.55
		Total	454	674	980	1,431	2,138	8.2	7.8	7.9	8.4	8.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.39	0.48	0.61	0.79	1.06
Lampung	21	L. Selatan	514	762	1,161	1,812	2,839	8.2	8.8	9.3	9.4	8.9	26.5	25.9	25.6	25.7	26.0	0.28	0.39	0.55	0.79	1.15
	22	L. Tengah	591	881	1,318	1,982	2,967	8.3	8.4	8.5	8.4	8.4	30.5	29.9	29.0	28.1	27.2	0.31	0.43	0.61	0.86	1.21
	23	L. Utara	359	565	883	1,386	2,075	9.5	9.5	9.3	8.4	9.2	18.5	19.2	19.6	19.7	19.0	0.27	0.33	0.43	0.57	0.75
	24	L. Barat	68	86	114	157	225	4.9	5.8	6.6	7.4	6.2	3.5	2.9	2.5	2.2	2.1	0.22	0.25	0.31	0.38	0.50
	25	Kodya B. Lampung	407	649	1,057	1,714	2,821	9.8	10.2	10.2	10.5	10.2	21.0	22.1	23.3	24.3	25.8	0.64	0.87	1.23	1.75	2.54
		Total	1,938	2,943	4,539	7,051	10,927	8.7	9.1	9.2	9.2	9.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.32	0.43	0.60	0.84	1.18
Southern Sumatra			7,153	10,312	14,998	21,956	32,392	7.6	7.8	7.9	8.1	7.8						0.46	0.58	0.74	0.97	1.30

表２．６．１２　南部スマトラ地域投資推計額

(Unit: Rp. billion)

	1985	1986	1987	1988	1989	Total (1985-89)
Jambi	252	245	211	281	526	1,515
Departments	101	62	47	66	85	361
Inpres	25	28	27	27	35	142
Local Government	3	2	1	1	2	9
Public Total	129	92	75	94	122	512
Private Domestic	86	105	97	146	361	795
Private Foreign	37	48	39	41	43	208
Private Total	123	153	136	187	404	1,003
South Sumatra	1,089	1,227	1,441	1,961	1,829	7,547
Departments	259	240	193	279	313	1,284
Inpres	52	53	53	53	58	269
Local Government	5	5	0	0	0	10
Public Total	316	298	246	332	371	1,563
Private Domestic	672	843	1,102	1,485	1,343	5,445
Private Foreign	101	86	93	144	115	539
Private Total	773	929	1,195	1,629	1,458	5,984
Bengkulu	110	87	128	222	299	846
Departments	83	59	45	77	78	342
Inpres	19	19	19	22	39	118
Local Government	2	1	0	0	0	3
Public Total	104	79	64	99	117	463
Private Domestic	6	8	39	39	55	147
Private Foreign	0	0	25	84	127	236
Private Total	6	8	64	123	182	383
Lampung	452	531	626	806	991	3,406
Departments	169	116	108	136	183	712
Inpres	37	36	34	39	38	184
Local Government	7	6	5	6	7	31
Public Total	213	158	147	181	228	927
Private Domestic	158	247	346	456	607	1,814
Private Foreign	81	126	133	169	156	665
Private Total	239	373	479	625	763	2,479
Region	1,903	2,090	2,406	3,270	3,645	13,314
Departments	612	477	393	558	659	2,699
Inpres	133	136	133	141	170	713
Local Government	17	14	6	7	9	53
Public Total	762	627	532	706	838	3,465
Private Domestic	922	1,203	1,584	2,126	2,366	8,201
Private Foreign	219	260	290	438	441	1,648
Private Total	1,141	1,463	1,874	2,564	2,807	9,849

Source: Team's estimates based on data from BAPPENAS (LTA-97), Ministry of Finance, and BKPM.

投資効率をＧＤＰ産出額によって示す指標であり、次のように定義される。

$$ICOR = \frac{\text{総固定資本形成}}{\text{GDPの増加分}} = \frac{I}{\triangle GDP}$$

ＩＣＯＲが小さい数値であれば、投資効率が高いということを意味する。ＧＤＰ成長のターゲットを達成するために必要な投資額は、以下のように計算される。

$$I^{t} = ICOR \times GDP^{t+1}$$

ここで、I^{t} は、t年に投資されるべき資本、GDP^{t+1} は、翌年（t+1 年）に予定されるＧＤＰの純増加額を意味する。

信頼でき、容易に利用できる投資データがないとはいえ、調査団は、１９８５年から１９８９年にかけての州のＩＣＯＲを計算し、さらに２０１０年までのその予測を行った。このデータと予測については、表２．６．１３に要約されている。この表によれば、今後のジャンビ州、南スマトラ州、ベンクル州、ランポン州のＩＣＯＲは、１９８５年から１９８９年にかけてのものよりは高いと仮定されている。これは、４州ともＩＣＯＲ値が、１９８８年と１９８９年には上昇傾向を示しており、また、持続的開発に必要な最低限のインフラストラクチャーを欠いているために、４州は基礎的なインフラストラクチャーを建設したり、あるいは既存施設を維持することが求められているからである。これに沿って、４州の投資経済効率は、２０００年まで引続き低下することになろう。表２．６．１４の調査団の推定によれば、１９９０年の固定価格で見た南部スマトラ地域の所要投資額は、１９９０－１９９５年には１８兆３，０００億ルピア、１９９５－２０００年には２９兆１，０００億ルピア、２０００－２００５年には３７兆７，０００億ルピア、２００５－２０１０年には４９兆５，０００億ルピアとなろう。これらは、公的資金と民間資金の両方でファイナンスされよう。

表２．６．１３　限界資本・産出高比率（ＩＣＯＲ）の予測値

	ICOR					
	1985-1989	1990-1995	1995-2000	2000-2005	2005-2010	1990-2010
Jambi	2.44	3.8	4.0	3.4	3.0	3.4
South Sumatra	2.32	3.5	3.8	3.4	3.0	3.3
Bengkulu	2.16	4.3	4.5	3.8	3.2	3.7
Lampung	1.78	3.4	3.6	3.1	2.7	3.0
Region	2.16	3.6	3.8	3.3	2.9	3.3

Source: 1985 - 89 figures are estimated from data provided by BAPPENAS, Ministry of Finance, BKPM and each provincial BPS. Others are the Team's estimates.

表２．６．１４　南部スマトラ地域の所要投資額（非石油・ガス）

(1990 constant price, Rp. billion)

	1990-1995		1995-2000		2000-2005		2005-2010		1990-2010
Jambi									
GDP	1,257		1,865		2,778		4,168		6,329
ΔGDP		608		913		1,390		2,161	5,072
ICOR		3.8		4.0		3.4		3.0	3.4
ΣI		2,310		3,652		4,726		6,483	17,171
I		462		730		945		1,297	859
I/GDP (%)		29.6		31.5		27.2		24.7	27.2
South Sumatra									
GDP	6,356		8,847		12,394		17,408		24,636
ΔGDP		2,491		3,547		5,014		7,228	18,280
ICOR		3.5		3.8		3.4		3.0	3.3
ΣI		8,719		13,479		17,048		21,684	60,929
I		1,744		2,696		3,410		4,337	3,046
I/GDP (%)		22.9		25.4		22.9		20.6	22.5
Bengkulu									
GDP	752		1,117		1,624		2,372		3,543
ΔGDP		365		507		748		1,171	2,791
ICOR		4.3		4.5		3.8		3.2	3.7
ΣI		1,570		2,282		2,842		3,747	10,441
I		314		456		568		749	522
I/GDP (%)		33.6		33.3		28.5		25.3	28.8
Lampung									
GDP	3,263		4,954		7,642		11,871		18,395
ΔGDP		1,691		2,688		4,229		6,524	15,132
ICOR		3.4		3.6		3.1		2.7	3.0
ΣI		5,749		9,677		13,110		17,615	46,151
I		1,150		1,935		2,622		3,523	2,308
I/GDP (%)		28.0		30.7		26.9		23.3	26.2
Region									
GDP	11,628		16,783		24,438		35,819		52,903
ΔGDP		5,155		7,655		11,381		17,084	41,275
ICOR		3.6		3.8		3.3		2.9	3.3
ΣI		18,348		29,089		37,726		49,529	134,692
I		3,670		5,818		7,545		9,906	6,735
I/GDP (%)		25.8		28.2		25.0		22.3	24.6

Source: Team's estimates based on data from BAPPENAS, Ministry of Finance, BKPM and each provincial BPS.

２．７　空間フレームワーク

２．７．１　空間フレームワークの要素

計画作りというものは、決して白いキャンバスに絵を描くようなものではない。その代わりにプランナーに与えられるものは現実、すなわち過去の事象とその結果との多彩な配列である。計画作りの最終目的が現実を修正してよりよいものを求めることであったとしても、全ての要素がそのような試みに従うわけではない。人間の力のおよばないもの（例えば、火山）、プランナーの裁量を超えるもの（例えば、外国市場）、実現には与えられた計画期間よりずっと時間のかかるもの（例えば、スンダ海峡の海底トンネル）、修正に金がかかりすぎるもの（例えば、定住システム）などがある。

全計画期間にわたって、プランナーに全面的または大部分が所与となる要素が計画作りのフレームワークを構成する。ここでの空間フレームワークとは、特に地域計画に重要な意味を持ついくつかの主要な計画要素の空間的分布パターンを記述するものである。これらの要素とは、土地利用及び保全地区、人口および居住地、将来の移住用地、交通網、灌漑設備、通信網と送電網などである。これらは州レベルの空間構造計画（ＲＳＴＲＰ）で扱う重要な部分でもある。この空間フレームワークは、ＲＳＴＲＰ計画と整合し、その計画を補うものと考えられている。現在の分布パターンは後の図に表わされているが、その図は便宜上この節の最後にまとめられている。

２．７．２　土地利用と保全地区

図２．７．１から２．７．４までは、現在の土地利用形態と保全地区を州ごとに示している。地図上の太い線が示す境界は２種類の森林、指定森林と公園及び保護森林で、厳格な保護指定地域を示している。これを見るとわかるように、保全地区の多くはバリサン山脈沿いにある一方、巨大な自然保護指定地が東海岸に位置している。注目すべきことは、ベンクル州の大部分の地域が、新たに開発することを認められていないということである。

２．７．３　人口および居住地

南部スマトラ地域での人口分布を示すために、図２．７．５ではカブパテン／コタマジャにより人口の規模を図示している。これから二点が見てとれる。まず大ざっぱに言って分布は南方向に偏っていること、第二に東西の分布はかなり均衡しているということである。

図２．７．６は中核都市の分布とその規模（都市人口）を示している。これを見ると、内陸部には州間に影響を持つ地方経済の中心としての役割を果たす強力な中規模都市がないことが分かる。

２．７．４　移住用地

移住用地は、地域の将来の構造に重要な意味を持つ。これらは特に農業の開発のために準備されたもので、そこには小さいが新しい定住地が作られることになっている。図２．７．７は、現在実施を待つ今後の移住用地とすでに定住が済んでいる移住用地とを示している。

２．７．５　交通網

主要な道路と鉄道システムが、図２．７．８に示されている。過去においては主要な交通手段は河川運送であり、現在の主要都市は、海岸からまた内陸からの商品がそこに集まり積み換えられていた交易地（例えば、パレンバン）から発展したものである。１９８０年代初期にスマトラ縦貫道が完成するまでは、この東西の交流パターンというものが、過去何世紀も主流であった。それ以後、南部スマトラ地域ではこの道路が最も重要なインフラストラクチャーとなったが、それがスマトラを通る物資や人の移動の全体図を変えたわけではなかった。この図は、この地域に発生する交通全てのうちの大きな部分をいまだに占めている昔ながらのスマトラ横断移動のアクティブなイメージを伝えていないという点で、幾分誤解を招くところがあろう。

２．７．６　灌漑設備

１，０００ha以上の大型灌漑設備と１，０００ha以上の湿地埋立地域が図２．７．９に示されている。大灌漑設備はほとんどがバリサン山脈沿いにあるが、ランポンにもいくつかの大きなものが集中していることが注目される。ジャンビでは、このような大きな計画は２つだけである。それと対照的に、湿地埋立地域は当然東部海岸地方にあるが、特に２つの主要河川、ジャンビのバンタン・ハリ川と南スマトラのムシ川に沿っている。

２．７．７　通信網

図２．７．１０は、現存及び計画中の通信システムを示している。これによるとかなり驚く

べき事実がわかる。すなわち通信事業はほとんど都市部に限定されており、トランス・スマトラ・マイクロ波回線に沿った都市でさえこの通信システムにアクセスしていないのである。農村部における通信手段の欠如ももう一つの現実であり、これについて地域は真正面から取り組まねばならないであろう。

２．７．８　送電網

図２．７．１１は、主要発電所と送電線の現存及び、ＰＬＮが計画中のシステムを示している。

２．８　ＩＤＥＰ（総合開発プログラム）アプローチ

第１章第４節で既に述べたように、ＩＤＥＰ（総合開発プログラム）がこの計画で採用されている地域開発に対する基本的なアプローチである。ＩＤＥＰは、優先地区（通常は、カブパテン／コタマジャ規模）における多部門プログラムである。このアプローチを採用した理由は４つある。

１）限られた資源を効率よくかつ効果的に使用する。
２）様々な種類と部門のプロジェクトを１つの地域の中で調和する。
３）部門では優先順位が低いが、地域としては優先順位が高いプロジェクトにチャンスを与える。
４）地方政府のイニシアティブを高める。

このＩＤＥＰアプローチと対照的なのが、従来の部門（セクター）アプローチである。すなわち、それぞれのセクターの省庁や部局がプロジェクトを形成し、計画を立て実行する。政府がセクターごとに組織されている限りこの方法はごく自然であり、地域開発計画はこの線にそって進行していくであろう。事実この報告書（第４巻）に記載されたプロジェクトは、基本的に各セクターの省庁および部局が提供した情報に基づき、チームのセクター専門家が形成したものである。ＩＤＥＰがこの調査の基本的アプローチとして強調され、事実６つのＩＤＥＰがこの計画の焦点であるとしても、それはＩＤＥＰが従来のセクターアプローチに完全に取って代わっていくということではないのである。

Source: Compiled by the Team from BAPPEDA Jambi, Data Pokok Untuk Pembangunan Daerah 1989/1990

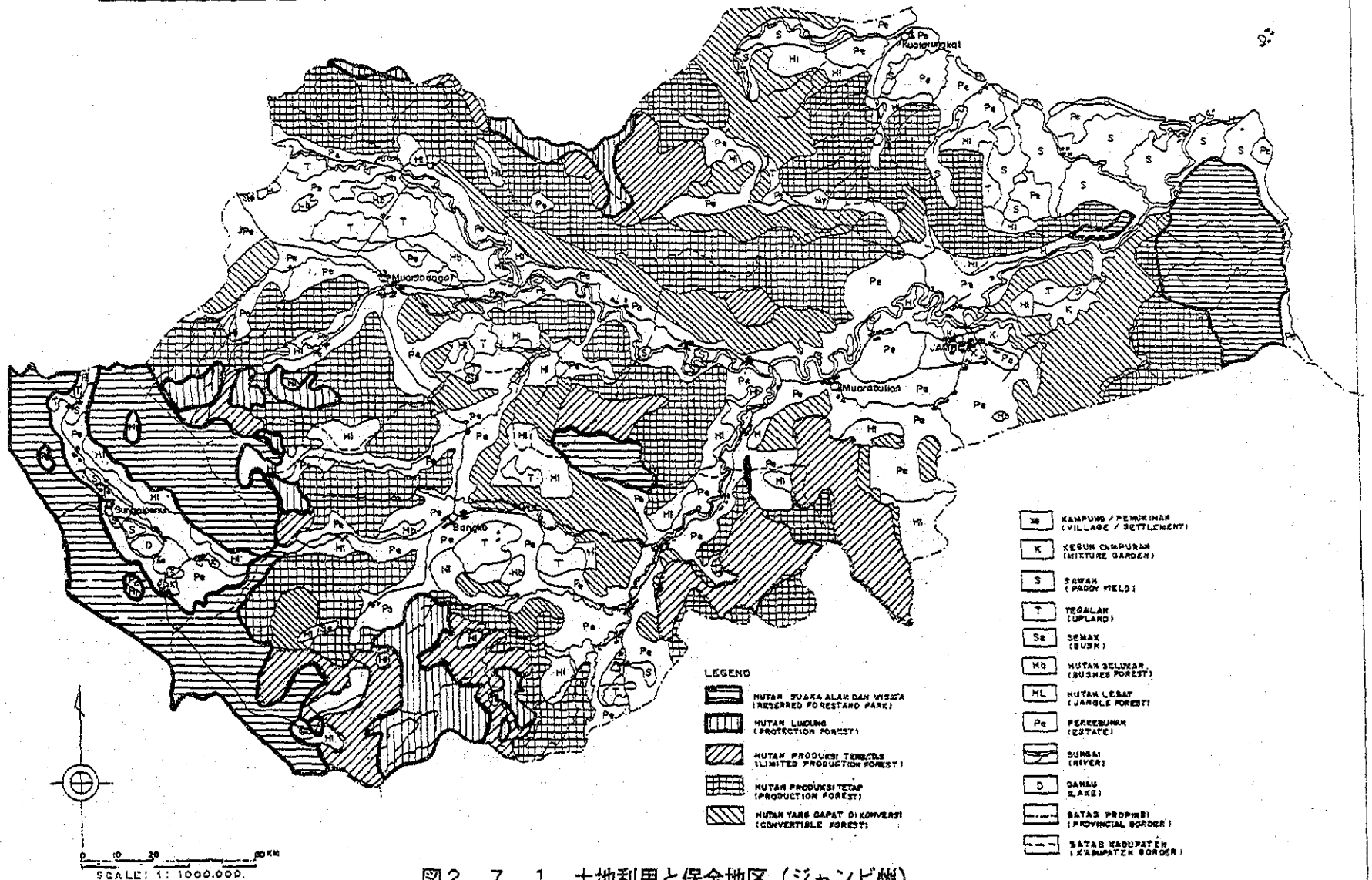


図２．７．１　土地利用と保全地区（ジャンビ州）

Source: Compiled by the Team from BAPPEDA South Sumatra, Data Pokok Untuk Pembangunan Daerah 1990/1991

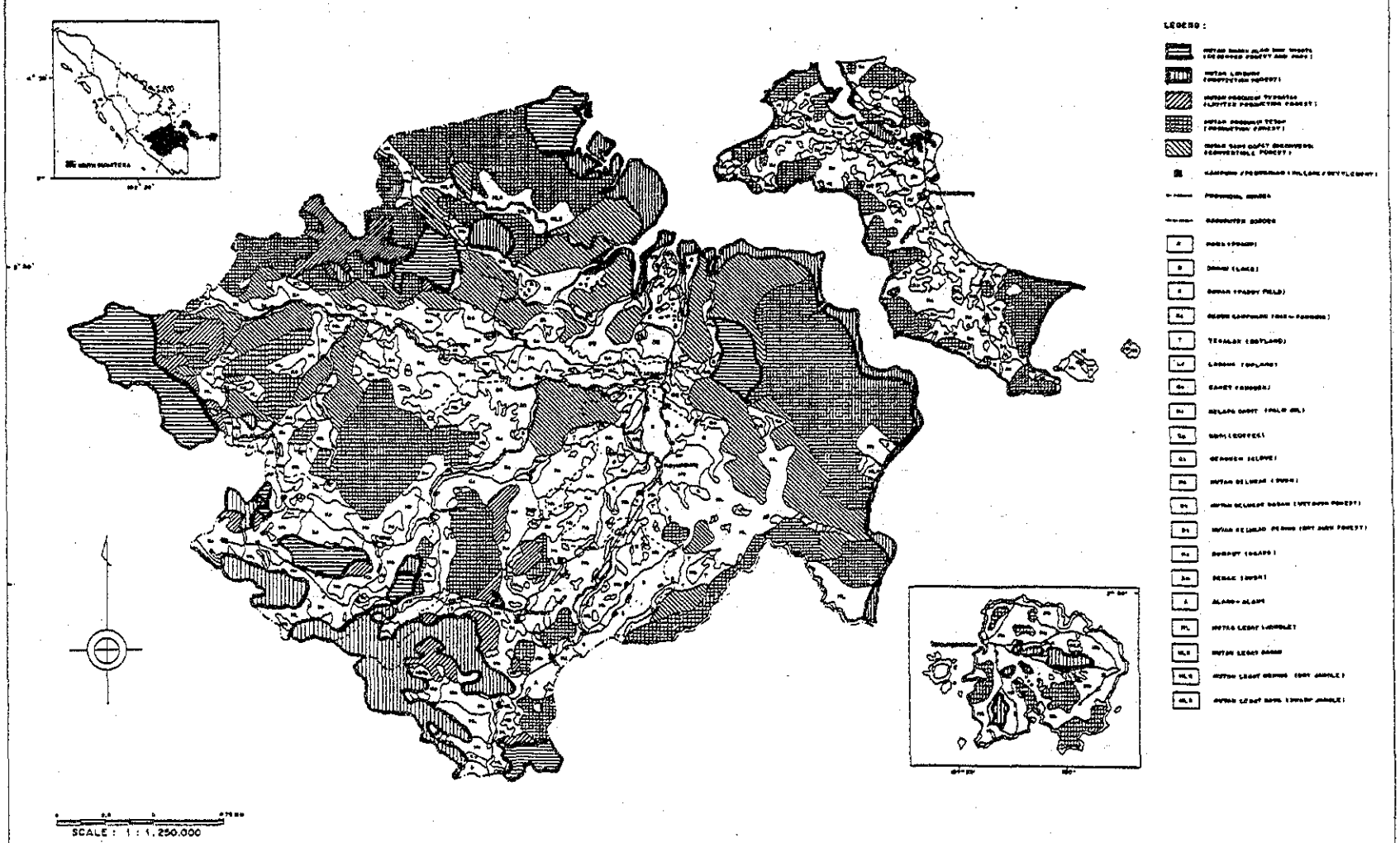


図2．7．2　土地利用と保全地区（南スマトラ州）

Sources: Compiled by the Team from BAPPEDA Bengkulu, Pemerintah Propinsi Daerah Tingkat I, 1991, and Ministry of Forestry, Tata Guna Hutan Kesepakatan, 1990?

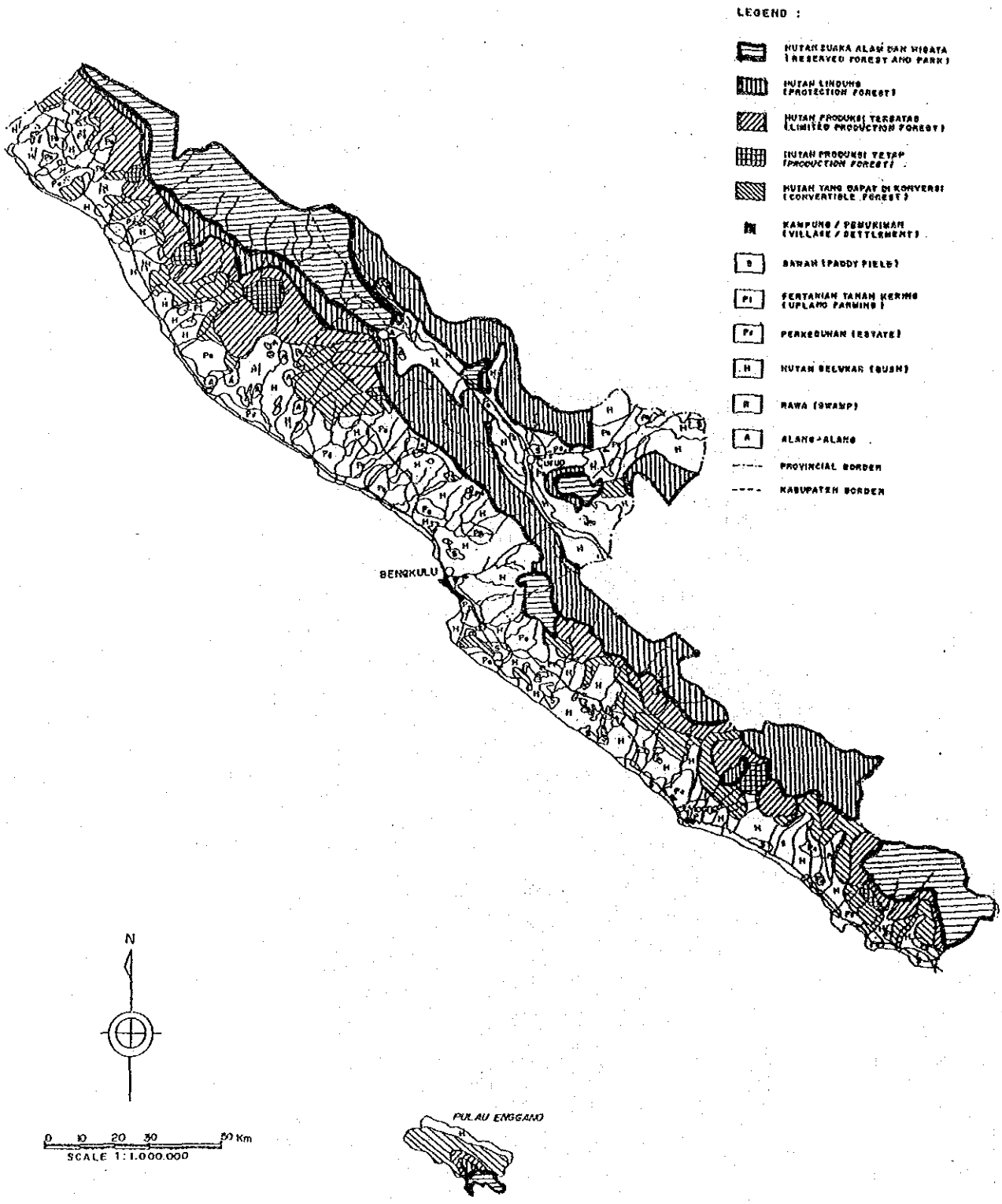


図２．７．３　土地利用と保全地区（ベンクル州）

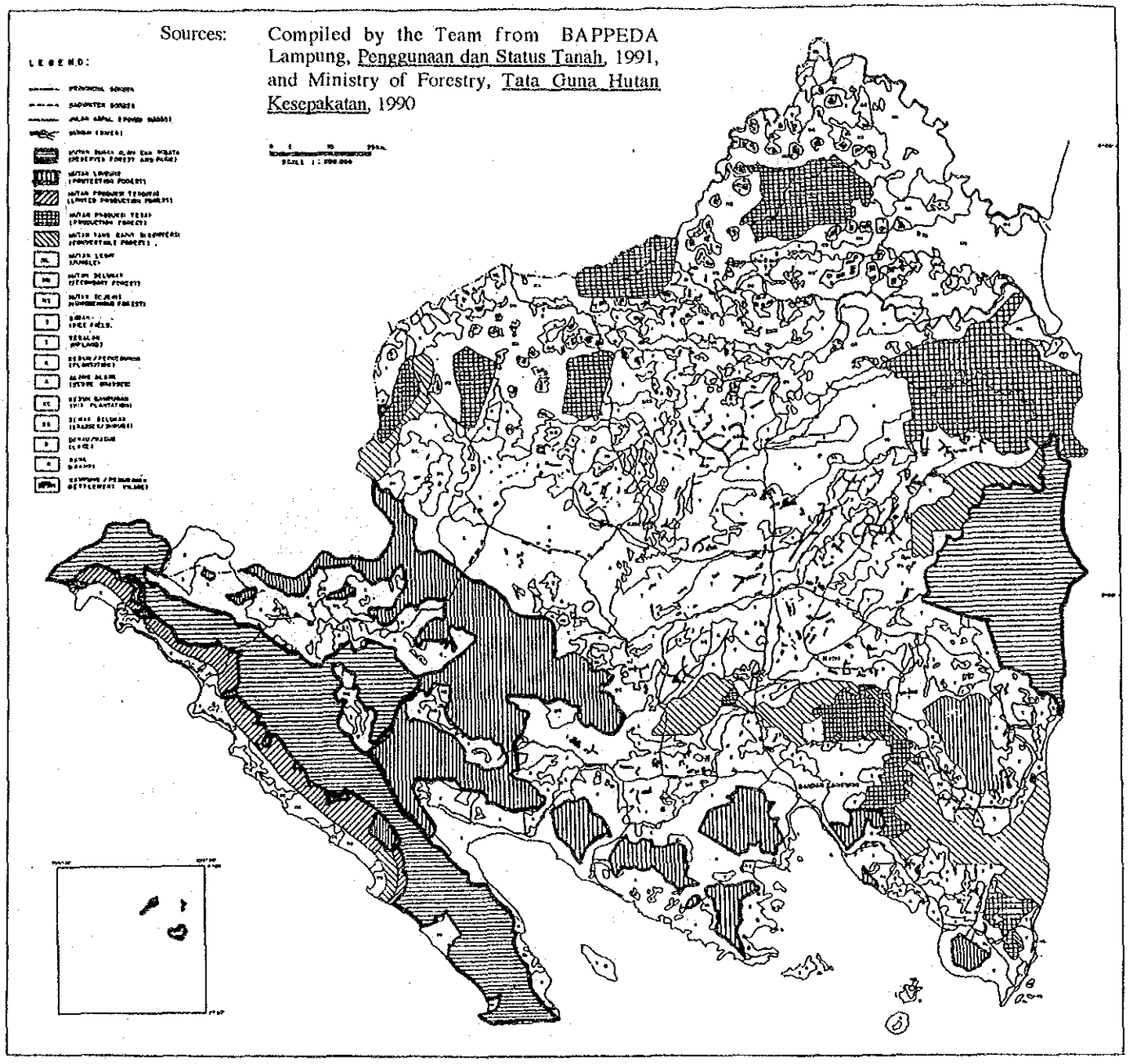


図２．７．４　土地利用と保全地区（ランポン州）

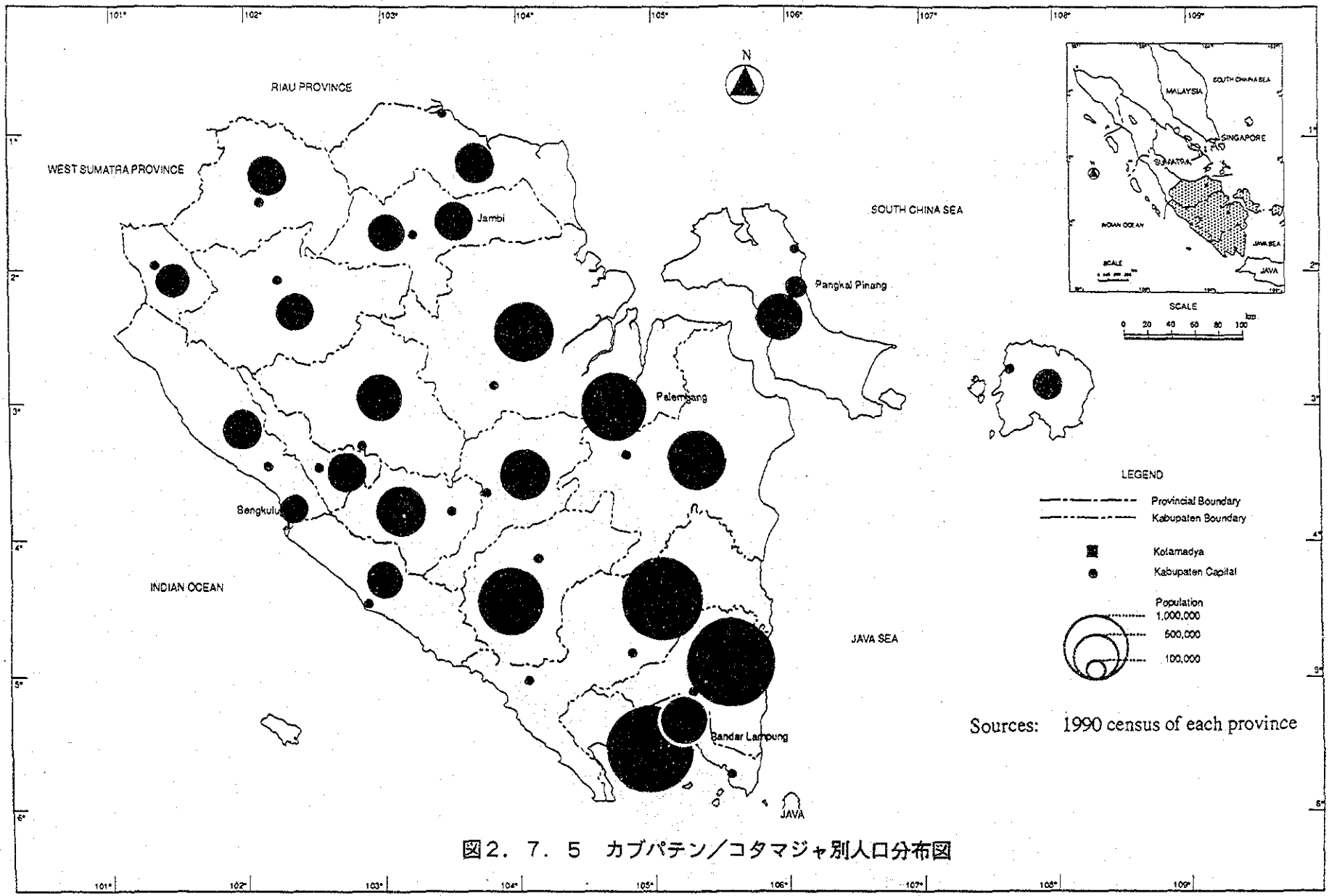


図2．7．5　カブパテン／コタマジャ別人口分布図

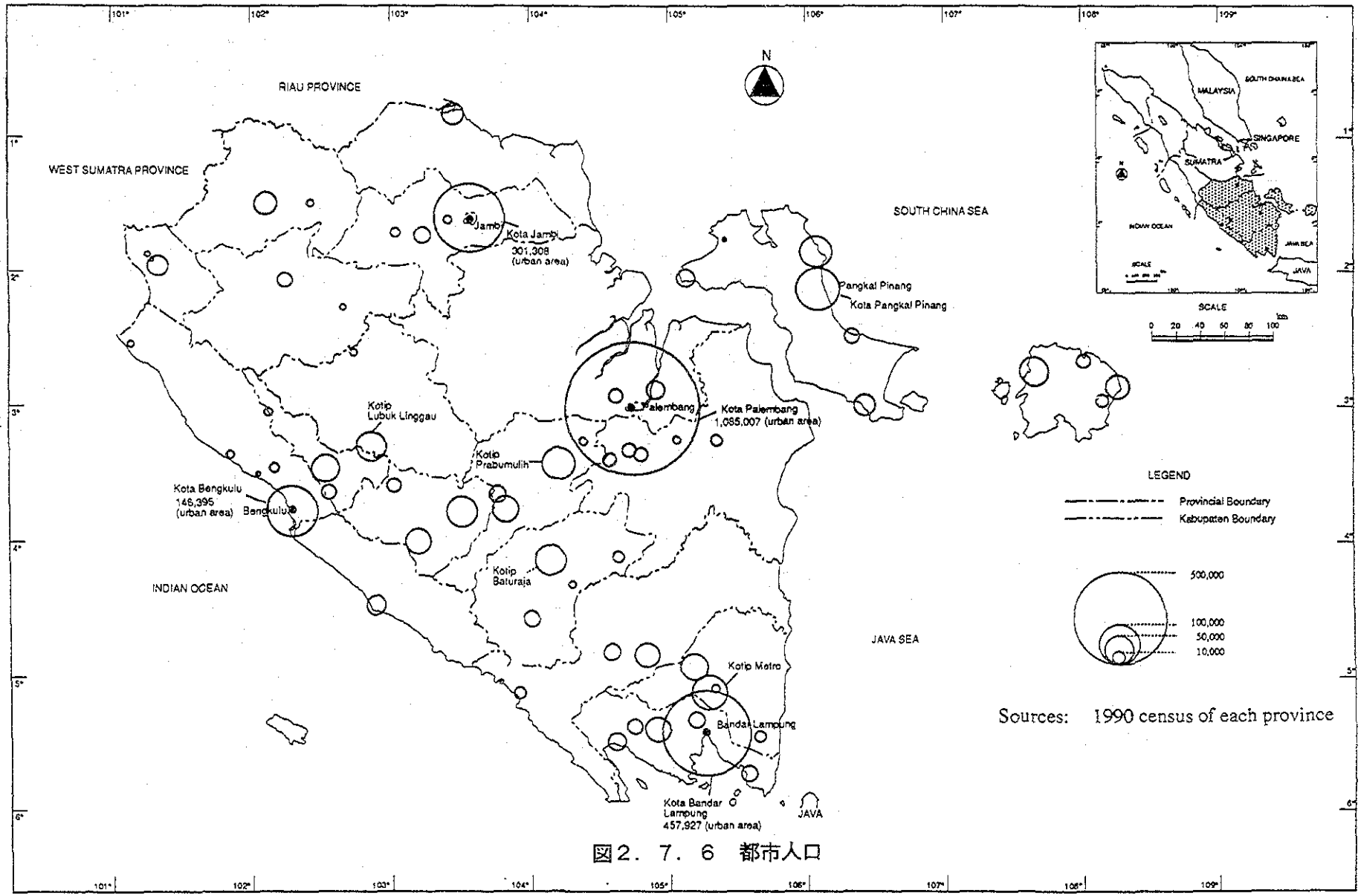
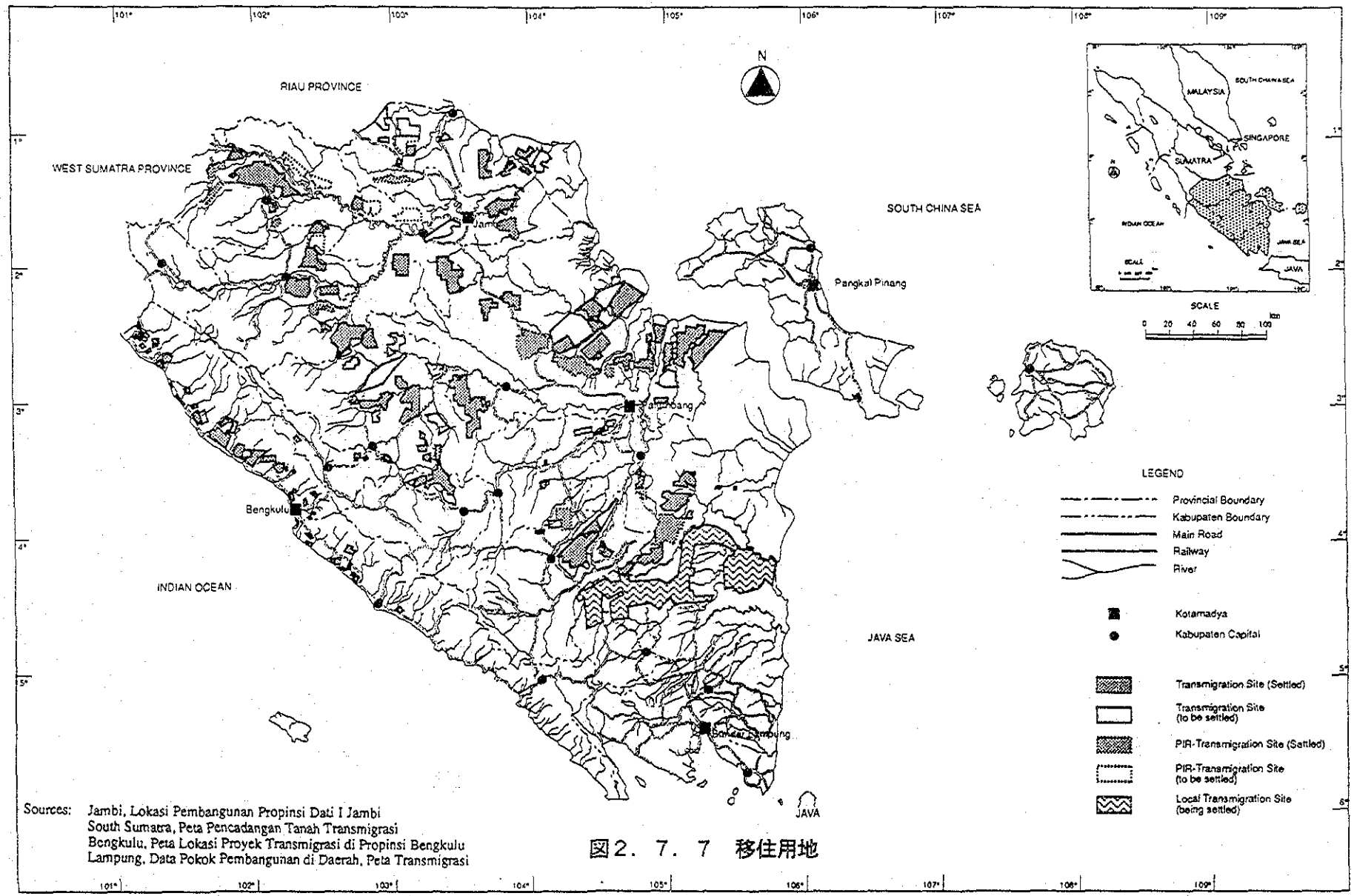

RIAU PROVINCE
WEST SUMATRA PROVINCE
SOUTH CHINA SEA
INDIAN OCEAN
JAVA SEA
JAVA
N
Jambi
Kota Jambi
301,308
(urban area)
Pangkal Pinang
Kota Pangkal Pinang
Palembang
Kota Palembang
1,085,007 (urban area)
Kotip
Lubuk Linggau
Kotip
Prabumulih
Kota Bengkulu
146,395
(urban area)
Bengkulu
Kotip
Baturaja
Kotip Metro
Bandar Lampung
Kota Bandar
Lampung
457,927 (urban area)
MALAYSIA
SINGAPORE
SUMATRA
SCALE
0 20 40 60 80 100
LEGEND
Provincial Boundary
Kabupaten Boundary
500,000
100,000
50,000
10,000
Sources: 1990 census of each province

図2．7．6　都市人口



Sources: Jambi, Lokasi Pembangunan Propinsi Dati I Jambi
South Sumatra, Peta Pencadangan Tanah Transmigrasi
Bengkulu, Peta Lokasi Proyek Transmigrasi di Propinsi Bengkulu
Lampung, Data Pokok Pembangunan di Daerah, Peta Transmigrasi

図2．7．7　移住用地

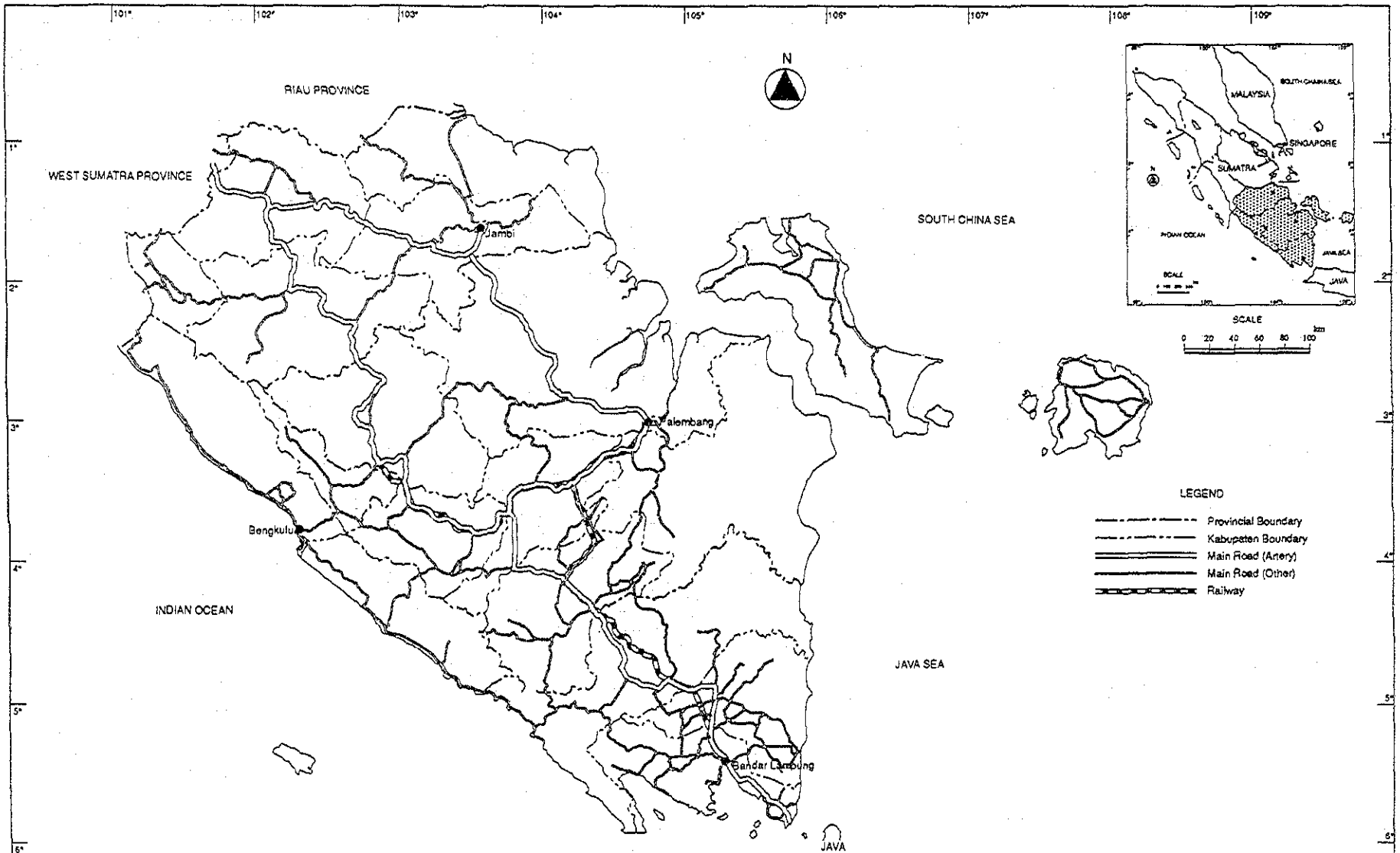

RIAU PROVINCE
WEST SUMATRA PROVINCE
SOUTH CHINA SEA
INDIAN OCEAN
JAVA SEA
JAVA
Jambi
Palembang
Bengkulu
Bandar Lampung
N
SCALE
0 20 40 60 80 100 km
LEGEND
Provincial Boundary
Kabupaten Boundary
Main Road (Artery)
Main Road (Other)
Railway
MALAYSIA
SINGAPORE
SUMATRA
JAVA

図2．7．8　交通網

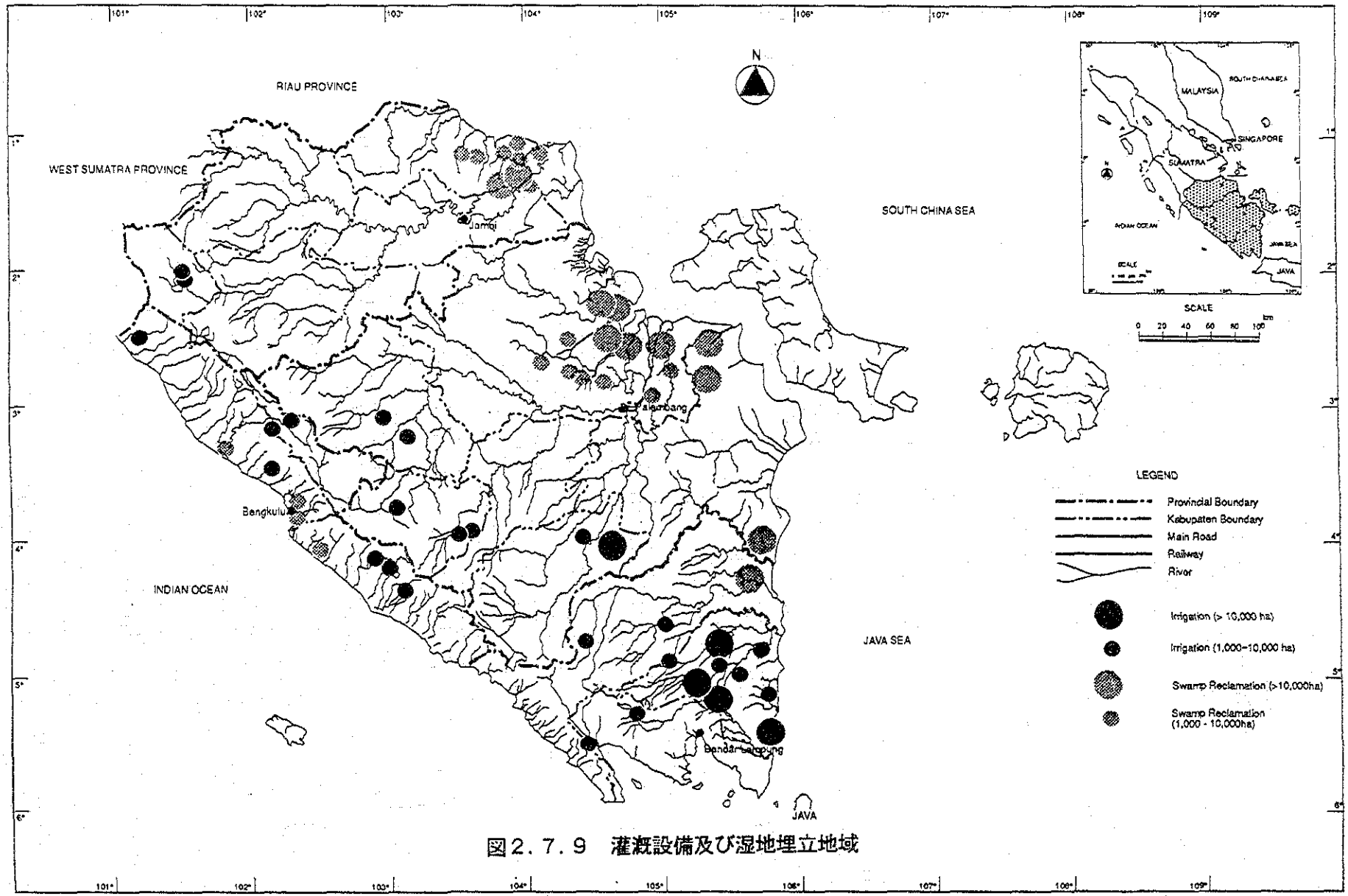


図2.7.9　灌漑設備及び湿地埋立地域

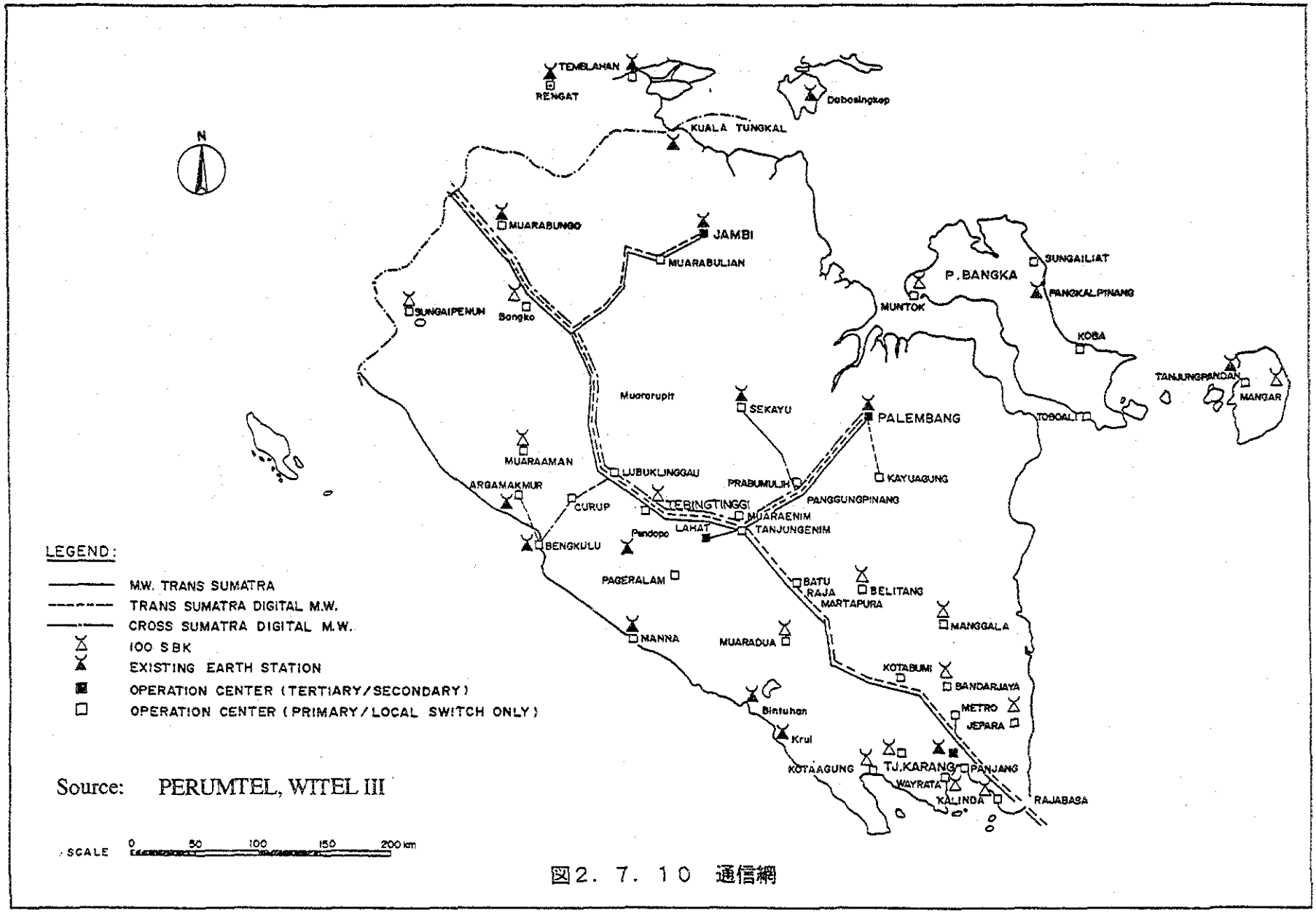

N
TEMBLAHAN
RENGAT
Dabosingkep
KUALA TUNGKAL
MUARABUNGO
JAMBI
MUARABULIAN
SUNGAIPENUH
Sengko
P. BANGKA
SUNGAILIAT
PANGKALPINANG
MUNTOK
KOBA
TANJUNGPANDAN
MANGAR
TOBOALI
Muararupit
SEKAYU
PALEMBANG
MUARAAMAN
LUBUKLINGGAU
PRABUMULIH
KAYUAGUNG
ARGAMAKMUR
CURUP
TEBINGTINGGI
PANGGUNGPINANG
MUARAENIM
LAHAT
TANJUNGENIM
Pendopo
BENGKULU
PAGERALAM
BATU RAJA
BELITANG
MARTAPURA
MANGGALA
MANNA
MUARADUA
KOTABUMI
BANDARJAYA
METRO
JEPARA
Bintuhan
Krui
KOTAAGUNG
TJ.KARANG
PANJANG
WAYRATA
KALINDA
RAJABASA
LEGEND:
M.W. TRANS SUMATRA
TRANS SUMATRA DIGITAL M.W.
CROSS SUMATRA DIGITAL M.W.
100 SBK
EXISTING EARTH STATION
OPERATION CENTER (TERTIARY/SECONDARY)
OPERATION CENTER (PRIMARY/LOCAL SWITCH ONLY)
Source: PERUMTEL, WITEL III
SCALE 0 50 100 150 200 km

図2．7．10 通信網

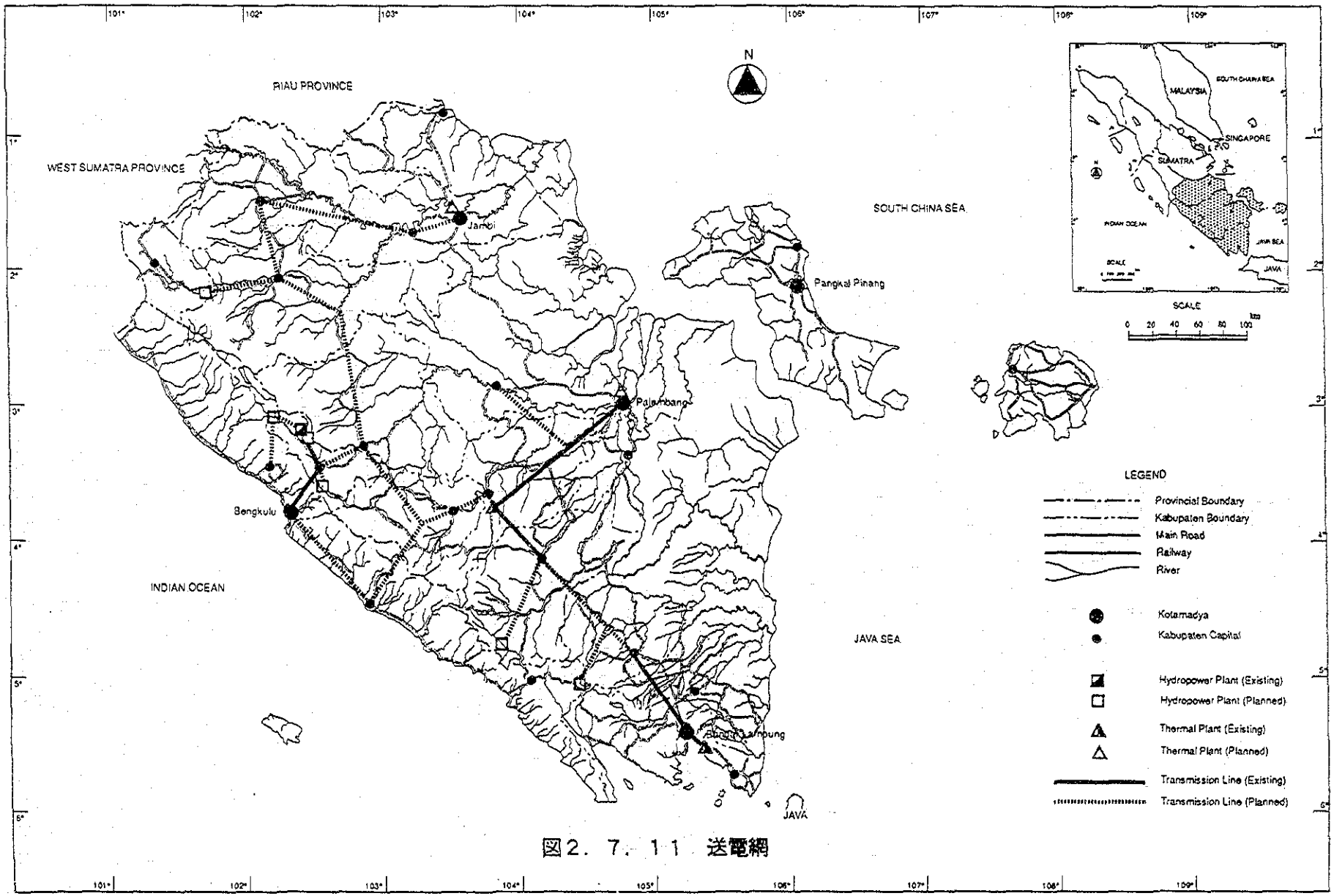

RIAU PROVINCE
WEST SUMATRA PROVINCE
SOUTH CHINA SEA
INDIAN OCEAN
JAVA SEA
JAVA
Jambi
Pangkal Pinang
Palembang
Bengkulu
Bandar Lampung
N
SCALE
0 20 40 60 80 100
MALAYSIA
SOUTH CHINA SEA
SINGAPORE
SUMATRA
INDIAN OCEAN
JAVA SEA
JAVA
LEGEND
Provincial Boundary
Kabupaten Boundary
Main Road
Railway
River
Kotamadya
Kabupaten Capital
Hydropower Plant (Existing)
Hydropower Plant (Planned)
Thermal Plant (Existing)
Thermal Plant (Planned)
Transmission Line (Existing)
Transmission Line (Planned)

図2．7．11 送電網

２．９　開発コンセプト

２．９．１　はじめに

この章の最終的な目的はＩＤＥＰの策定と実施のため、地域内のいくつかの候補地区を見つけ出し提案することである。この調査においてＩＤＥＰは基本的アプローチと主要な結果との両方を意味しているので、その将来のサイトは注意して選定しなければならない。この節及び次の節で、このＩＤＥＰのサイト選定の仕方を説明する。

サイトの選定は複雑な作業である。同時に多くの側面を考慮しなければならないからである。例えば、成長ポテンシャル、公平性、環境面、地元の願望、戦略上の必要性、割り当てられる機能などである。そこで選定の手順は、これらの諸事情を体系的に処理するため次のように作られる。

ステップ１：南部スマトラ地域の開発コンセプト
　　地域経済の基本的空間構造を示す地図、これは１つの絵の中にその役割、目的、将来の方向、戦略及びフレームワークを統合したもの。

ステップ２：各州の役割
　　開発コンセプトと地域の役割に基づくそれぞれの州としての役割の詳細。

ステップ３：カブパテン／コタマジャの開発方向
　　第５次州開発５ヵ年計画に記述されている各カブパテン／コタマジャの開発方向の体系的な見直し。

ステップ４：カブパテン／コタマジャの優先順位評価
　　様々な評価基準に照らしてのカブパテン／コタマジャの優先順位づけ。

ステップ５：ＩＤＥＰサイトの選定
　　開発コンセプトで明らかにされた地域的戦略と、ステップ４で見出される優先開発地区の両方を考慮して少数の候補地区を選定。

以下の諸節で、これらのステップについて個々に説明する。

２．９．２　南部スマトラ地域の開発コンセプト

前の章では、地域の役割、ゴール、目標とターゲット、将来の開発方向、戦略とフレームワークについて確認した。これらの点は、１つの一貫した絵の中に統合されるべきである。

南部スマトラ地域の開発コンセプトの概略は、図２．９．１の通りである。

基本構造をはっきりさせるために、このコンセプトは農業と工業、主要都市（このうちのいくつかは工業の中心である）と交通網のみに焦点を絞ってある。このコンセプトによると、地域は本土と「島嶼部」（バンカ、ブリトン）とからなり、本土には３つの「農業地帯」、１つの「農工業地帯」およびいくつかの工業センターと主要都市とがある。

このコンセプトの中核となるのがバンダル・ランポンから北へバトラジャとパレンバンを結ぶ地帯で、これは「スマトラゲートウェイ三角地帯」と言われ、これから農工業が活発に推進される地域である。３つの「農業地帯」と１つの「農工業地帯」は全て何らかの形でこの「三角地帯」に接続され、表２．９．１に述べるそれぞれの割当て機能を行なうのである。

表２．９．１　地帯とその主要産品

地帯	主要産品（１，２：優先順位）
農工業地帯	1　原料農産物
	1　食用作物
農業地帯１	1　食用作物（特に「成長の三角地帯」向け）
	2　原料農産物
農業地帯２	1　原料農産物
	2　食用作物
農業地帯３	1　原料農産物（輸出用）
	2　食用作物と水産物
島嶼部	1　観光

２．１０　優先開発地区とＩＤＥＰ地区の選定

２．１０．１　各州の役割

地域開発のコンセプトに基づき、さきに述べたような地域の役割の全枠組の中で、州のそれぞれの役割を規定することができる。表２．１０．１は、各州の役割、そして参考に地域の役割を示している。

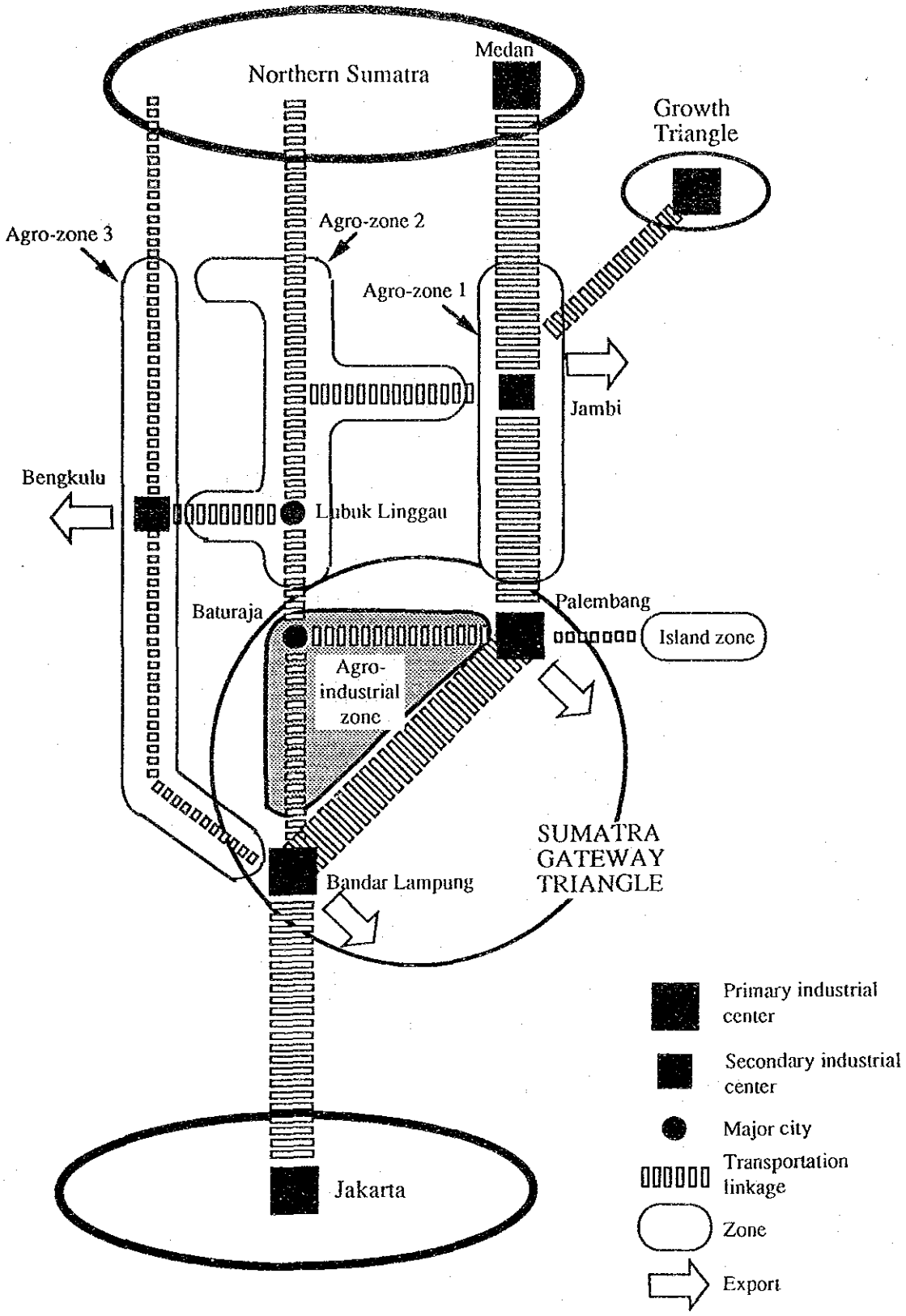


図２．９．１　南部スマトラ地域の開発概念図

表２．１０．１　各州の役割

地域全体の役割
１）４州相互間の経済的結びつきを強化しつつ、ジャワや北部スマトラと共に国家開発を先導し、その開発利益を地域内及びインドネシアの他地域にもたらす。 ２）「成長の三角地帯」及び近隣国に近接している地理的優位を活かし、天然資源関連の産品あるいはその製品の輸出促進を図る。 ３）環境面と両立する持続的開発を促進しつつ、国家の財産としての自然環境を保護する。
各州の役割
ジャンビ州 １）農業地帯１：「成長三角地帯」向け農業基地 ２）農業地帯２：「スマトラゲートウェイ三角地帯」向け農業基地 ３）ジャンビ：第二次農工業センター ４）北部スマトラへの接続点 ５）クリンチスブラット国立公園とバタンハリ川の主たる管理主体 ６）移民の受入地
南スマトラ州 １）パレンバン：地域の経済および通信・運輸の中心 ２）パレンバン：第一次総合工業センター ３）農工業地帯：「スマトラゲートウェイ三角地帯」の一部 ４）農業地帯２：「スマトラゲートウェイ三角地帯」向け農業基地 ５）島地帯：主要な観光地 ６）維持可能なエネルギー基地
ベンクル州 １）農業地帯２：「スマトラゲートウェイ三角地帯」向け農業基地 ２）農業地帯３：ジャワ向け農業（特に水産）基地 ３）ベンクル：第二次農工業センター ４）ベンクル：西海岸側での出口 ５）北部スマトラへの接続点 ６）環境管理研究のセンター
ランポン州 １）スマトラにおけるジャワへのアクセス点 ２）バンダル・ランポン：第一次農工業センター ３）農工業地帯：「スマトラゲートウェイ三角地帯」の一部でジャワ向け農業基地 ４）農業地帯３：「スマトラゲートウェイ三角地帯」およびジャワ向け農業基地 ５）環境を意識した主要な観光地

２．１０．２　カブパテン／コタマジャ別開発方向

第５次州開発５ヵ年計画（レペリタダＶ）では各カブパテンとコタマジャの優先部門と問題点を説明している。レペリタダＶそれ自体は中期の計画であるが、その中でカブパテンとコタマジャの記述は長期開発の方向を示すものとして役に立つものである。これは優先順位評価には欠くことのできない情報を提供しているので、表２．１０．２に再録しておく。

表に記載されている「開発の方向」と「主要問題点」とは各州のレペリタダＶの第Ⅱ巻から抜粋したものである。従って、これらは基本的に州政府の見解である。しかし、この表は、またその編集のやり方において調査団の見解も反映させている（例えば宗教に関するものや重複する項目などは省いている）。また、項目の順序は、必ずしも優先順位を示すものではない。

２．１０．３　カブパテン／コタマジャの優先順位評価

次のステップは、全てのカブパテン／コタマジャの間での優先順位を体系的に評価することである。評価は、次のようになされる。

（１）評価基準および得点づけ

全部で１７の評価基準が使われる。これらは、それぞれ計画作成において重要な留意点である。これらをⅠ.成長、Ⅱ.公平、Ⅲ.環境、Ⅳ.戦略的考慮、そしてⅤ.コストの５つにグループ分けすることができる。１つの基準項目に関して、各カブパテン／コタマジャは、２か１か０の得点が与えられる。この基準とそれぞれの採点方法は、表２．１０．３に記述がある。人的資源開発に関する評価基準は、重要であるにもかかわらずリストに含まれていない。国連開発計画（ＵＮＤＰ）が発行した１９９１年人間開発報告書は、とりわけ成人の識字率と出生時における平均余命が人間の開発レベルの２つの最も適切な指標であり、これが開発の全プロセスに大きく影響を与えるものと示唆している。しかし、カブパテンベースの統計データがないので、評価においては、これらの指標を使っていない。

（２）ウェイト

これらの基準には、その重要性に従って一定のウェイトが与えられる。ウェイトの合計は、

表２．１０．２　カブパテン／コタマジャ別の開発方向
（第５次州開発５ヵ年計画及びそれ以降）

I. Jambi

No.	Kabupaten Kotamadya	Land Area (km^2)	Population (1990)	Population Density (1990)	Population Growth (1980-90,%)	Direction of Development[2] (* Major Issue)
1.	Kerinci	4,200	279,146	67	1.48	- Food crops - Tree crops (cinnamon, coffee, clove, tea) - Craft/cottage industry - Tourism (Kerinci Seblat National Park) (* Possible resettlement of inhabitants) (* Job creation)
2.	Sarolangun Bangko	14,200	350,284	25	4.87	- Food production base (irrigation, livestock) - Tree crops (rubber, clove, coffee) - Forest crops (timber, rattan, wax) - Mining (gold, coal) - Mineral resources based industry (* Inadequate roads) (* Inadequate urban centers)
3.	Batang Hari	11,130	324,017	29	4.10	- Estate crops (rubber, oil palm, cocoa, coffee, pepper) - Livestock - Agro-industry (* Roads to isolated areas) (* Job creation)
4.	Tanjung Jabung	10,200	361,403	35	1.80	- Food crops - Tree crops (coconut, etc.) - Fishery (marine, tambak, inland) - Small-scale agro-industry (* Inadequate transportation)
5.	Bungo Tebo	13,500	361,243	27	4.28	- Estate crops (oil palm, rubber, pepper) - Food crops - Livestock - Forestry - Agro-industry (* Roads to isolated areas) (* Unused land along the trans- Sumatra highway) (* Inadequate urban centers)
6.	Kotamadya Jambi	206	340,066	1,651	3.97	- Center for services, cultural and economic activities, education, etc. (* Port) (* Airport) (* Roads to hinterland)
	Jambi	**53,436**	**2,016,159**	**38**	**3.38**	

Note: 1) This Table is compiled from volume II of Repelita V of each province and does not reflect the Team's views.
2) Items' order does not necessarily imply priority.

II. South Sumatra

No.	Kabupaten Kotamadya	Land Area (km^2)	Population (1990)	Population Density (1990)	Population Growth (1980-90,%)	Direction of Development (* Major Issue)
7.	Ogan Komering Ulu	10,408	964,460	93	2.54	- Food crops - Estate crops (rubber, coffee, clove, tobacco, cinnamon, pepper, coconut) - Livestock - Fishery - Forestry - Tourism - Mining (oil, nickel, iron, diamond, coal) - Agro-industry (* Rehabilitation of physical infrastructure) (* Rural area development) (* Conservation)
8.	Ogan Komering Ilir	21,658	771,463	36	3.18	- Food crops (rice) - Estate crops (sugar cane, rubber, coconut, oil palm) - Livestock (cattle, buffalo) - Fishery - Small-scale industry (* Rehabilitation of physical infrastructure) (* Relative underdevelopment)
9.	Muara Enim	9,575	582,396	61	3.06	- Estate crops (rubber, coffee, coconut) especially smallholders - Food crops (palawija) - Cooperatives - Mining (coal, oil, gas) and electricity (* Rehabilitation of physical infrastructure) (* Conservation)
10.	Lahat	4,034	601,843	149	2.18	- Coffee - Food crops - Mining (* Inadequate facilities for social services) (* Rehabilitation of physical infrastructure) (* Conservation)
11.	Musi Rawas	21,513	511,949	24	3.38	- Food crops (rice, palawija) - Estate crops - Cooperatives, marketing - Services - Rural electrification, water supply - Transmigration - Secondary education

					(* Strategic location for inter- provincial transportation) (* Inadequate transportation to isolated areas) (* Conservation)
12. Musi Banyuasin	25,664	883,719	34	4.10	- Transportation development (roads, inland waterways) - Estate development (rubber, oil palm) - Transmigration (PIR) - Rural development - Fishery (* Low population density)
13. Bangka	11,614	513,946	44	2.54	- Estate crops (pepper, clove, coconut) - Fishery (marine) - Metal and ceramic industries - Tourism - Transportation (airport, ferry service) (* Decline of tin mining) (* Need for land use plan) (* Rehabilitation of critical land) (* Natural resource manage- ment)
14. Belitung	4,532	192,972	43	1.65	- Fishery (marine) - Estate crops - Tourism - Mining - Rural development (isolated islands) - Social services (* Decline of tin mining) (* Natural resource manage-ment)
15. Kotamadya Palembang	224	1,141,036	5,094	3.78	- Industrial base - Service center - Physical infrastructure (roads, bridges, drainage, water supply, waste disposal, markets, bus terminals, etc.) - Tourism (* Rapid urbanization) (* Pollution)
16. Kotamadya Pangkal Pinang	32	113,163	3,536	2.31	- Physical infrastructure (water supply, drainage, electricity, roads, bridges) - Tourism - Social services
South Sumatra	**109,254**	**6,276,947**	**58**	**3.09**	

III. Bengkulu

No.	Kabupaten Kotamadya	Land Area (km^2)	Population (1990)	Population Density (1990)	Population Growth (1980-90,%)	Direction of Development (* Major Issue)
17.	Bengkulu Selatan	5,949	298,214	50	2.33	- Human resource development - Food crops (rice, palawija, vegetables) - Estate (PIR) - Fishery (marine, inland) - Livestock (cattle, poultry, goat) - Transportation development (tourism, transmigration) (* Conservation and management of land, forest and water resources)
18.	Rejang Lebong	4,110	367,980	90	2.47	- Agro-industry - Foodcrops (fruit, vegetables) - Estate crops (coffee, cinnamon, ginger) - Tourism (* Conservation and management of land, forest and water resources) (* Post harvest technology) (* Illegal gold mining) (* Road connection to Bengkulu Utara)
19.	Bengkulu Utara	9,585	342,601	36	6.75	- Road development - Food crops (irrigation, post harvest, seeds) - Estate development (PIR) - Fishery (marine, tambak, inland) - Livestock (poultry) - Craft/cottage industry - Enggano island development (* Conservation and management of land, forest and water resources)
20.	Kotamadya Bengkulu	145	170,327	1,175	10.15	- Center for education, social services, commerce, small-scale industries, tourism, etc. - Infrastructure (roads, water supply, electricity, telephone, etc.) - Fishery - Livestock
	Bengkulu	**19,789**	**1,179,122**	**60**	**4.38**	

IV. Lampung

No.	Kabupaten Kotamadya	Land Area (km^2)	Population (1990)	Population Density (1990)	Population Growth (1980-90,%)	Direction of Development (* Major Issue)
21.	Lampung Selatan	6,649	1,825,040	275	1.43	- Swamp reclamation (small irrigation) - Estate crops (coffee, clove, coconut) - Fishery (marine, tambak) - Livestock - Tourism - Transportation development (* Forest conservation and resettlement) (* Inadequate urban centers)
22.	Lampung Tengah	9,190	1,900,648	207	1.18	- Food crops (intensification, diversification) - Livestock - Fishery - Agro-industrial center - Center for farmers' vocational education/training (* Lack of urban development strategy) (* Conservation)
23.	Lampung Utara	14,418	1,335,435	93	6.42	- Estate crops (clove, pepper, rubber, coffee) - Horticulture - Swamp development (irrigation, tambak) - Livestock - Fishery (inland, marine) - Agro-industry - Trans-local migration (* Conservation) (* Opening up isolated areas)
24.	Lampung Barat	4,951	308,050	62	3.81	- Horticulture - Fishery (marine) - Tourism (* Conservation)
25.	Kotamadya Bandar Lampung	169	636,706	3,768	3.11	- Industrial base - Service center - Gateway-to-Sumatra transportation development (port, railway, highway, urban roads) (* Lack of urban land use plan)
	Lampung	**35,377**	**6,005,879**	**170**	**2.65**	

Sources: Land area from Dalam Angka of each province; population and growth rate from BPS, Penduduk Indonesia: Hasil Sensus Penduduk 1990 (January 1991), Table 2.5; Direction of Development and Major Issues are compiled by the Team from Repelita V of each province.

表2．10．3 評価基準及び得点付け

Criterion	Score 2	Score 1	Score 0
I. Growth			
1. Potential of agriculture/fishery[1)]	Horticulture, livestock, fishery for Java	Rest	Kotamadya without potential
2. Potential of irrigation[2)]	Proven possibility of large schemes, urgency of small irrigation	Possibility of large schemes	Rest
3. Potential of industry	No. of establishments, employees, gross output (large/medium): all higher than regional average	Either one is higher	Rest
4. Potential of tourism	Bangka (incl.Pangkal Pinang), Belitung, Lampung Selatan	Kerinci, Rejang Lebong, Lampung Tengah, Lampung Barat, 4 provincial capitals	Rest
5. Potential of mining	Muara Enim	Bungo Tebo, Musi Rawas, Rejang Lebong, Bengkulu Utara	Rest
6. Energy resources	Power plant (hydro, coal-fired) feasibility proven or under implementation	Power plant expected with high feasibility	Rest
7. Water Resources	Urgent need to secure water supply and control drainage	None	Rest
II. Equity			
8. GDP per capita (1990, without oil and gas)	Less than Rp.0.3 million	Rp.0.3 ~ 0.5 million	Rp.0.5 million and higher
9. Ratio of poor desa (1990)[3)]	Higher than 25%	10 ~ 25%	Less than 10%
10. Physician per 1,000 population (1990)	Less than 0.06	0.06 ~ 0.1	Higher than 0.1
11. Road density (m/km^2, 1990)	3 lowest kabupaten excluding lowland kabupaten of Tanjung Jabung, Batang Hari, Musi Banyuasin, Ogan Komering Ilir	9 second lowest kabupaten	Rest
III. Environment			
12. Forest area[4)]	More than 70% of land area	30 - 70%	Less than 30%
13. Environmental degradation[5)]	Kerinci, Palembang	Muara Enim, Bangka, Belitung, Lampung Selatan, Lampung Barat, Bandar Lampung	Rest
IV. Strategic Considerations			
14. Conformity to provincial roles	Leading position to play the provincial roles	Rest	None
15. Regional importance	Primary strategic locations viewed from the Region's development concept	Secondary strategic locations	Rest
16. Local aspirations	Highest priority by local authorities	High priority	Rest
V. Cost			
17. Overall development efforts	With best developed infrastructure	With better developed infrastructure	Rest

Notes:
1) Only potentials for new development of horticulture, livestock (large scale, aiming at major markets) and fishery paricularly targeting on Jakarta are taken into consideration. It is judged that other subsectors' potentials are more or less evenly distributed and thus do not differentiate kabupaten/kotamadya.
2) Only potentials for new development of large schemes and urgent need of small-scale irrigation are considered.
3) Based on data provided by BANGDES, the Ministry of Home Affairs.
4) This criterion is used to measure the quantity of existing environmental resources.
5) This criterion is used to measure the quality of existing environmental resources.

５０に設定される。（可能な最高得点は１００になるということである）。この合計は、まず次のように5カテゴリーに配分された。

Ⅰ．成長	１８
Ⅱ．公平性	１０
Ⅲ．環境	７
Ⅳ．戦略的考慮	１０
Ⅴ．コスト	５
計	５０

割り当てられたウェイトは、さらに下の表２．１０．４に示されるように、個々の基準のウェイトに分割される。

（３）結果

表２．１０．４は、カブパテン／コタマジャごとの得点、ウェイトおよび加重得点を示している。平均より上のものが“優先”と考えられるなら、それは次の１５のカブパテン／コタマジャである。

ジャンビ（３）	クリンチ
	バタン・ハリ
	タンジュン・ジャブン
南スマトラ（６）	オガン・コメリン・ウル
	オガン・コメリン・イリール
	ムアラ・エニム
	ラハット
	ムシ・ラワス
	コタマジャ・パレンバン
ベンクル（２）	ベンクル・スラタン
	ルジャン・ルボン
ランポン（４）	ランポン・スラタン
	ランポン・テンガ
	ランポン・ウタラ
	コタマジャ・バンダル・ランポン

表2．１０．４　カブパテン／コタマジャの優先順位査定の結果

		Criterion			I. Growth						II. Equity			III. Environment		IV. Strategic Considerations			V. Cost	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
		Weight (total=50)	4	2	4	2	2	2	2	3	3	2	2	4	3	3	3	4	5	Weighted
		Weight Subtotal				(18)					(10)			(7)			(10)		(5)	Score
Jambi	1	Kerinci	2			1				2		1		1	2	1		2	1	44
	2	Sarolangun Bangko	1	1						1	1	1	2	2		2	1			35
	3	Batang Hari	1		2					1	2	1	1	1		1	1		1	40
	4	Tanjung Jabung	2		1				2	1	1	1	1	1		2	2	2		50
	5	Bungo Tebo	1				1	1		1	1	1	2	1		1				27
	6	Kodya Jambi	1		2	1										2	1		2	33
South	7	Ogan Komering Ulu	1	2				2		1	2	2	1	1		1	2		1	45
Sumatra	8	Ogan Komering Ilir	1	1					2	1		2	1	2		2	1	2		44
	9	Muara Enim	1				2	2			2	1	1	1	1	1	2		1	43
	10	Lahat	2							1		1		2		1	2		2	40
	11	Musi Rawas	1	1			1			1		2	2	1		2	2	2		43
	12	Musi Banyuasin	1		2				2		2	2	1	1		1	1			38
	13	Bangka	1	2		2						1		1	1	1			2	34
	14	Belitung	1	2		2								1	1	1			2	32
	15	Kodya Palembang	1		2	1			2		1				2	2	2	1	1	48
	16	Kodya Pangkal Pinang	1			2										1			2	21
Bengkulu	17	Bengkulu Selatan	2	1						1				2		2	2	2		41
	18	Rejang Lebong	2			1	1	2		1			1	2		1	1		1	40
	19	Bengkulu Utara	1	1			1	1		1	1			2		1		2		35
	20	Kodya Bengkulu				1								1		2	1		2	25
Lampung	21	Lampung Selatan	1		2	2		1		2	1				1	2	2	1	1	51
	22	Lampung Tengah	2	1	2	1				1	1					1	1		2	42
	23	Lampung Utara	1	2	1			2		2	1		1			2	1	2		44
	24	Lampung Barat	1			1		1		2	1		1	1	1	1		2		37
	25	Kodya Bandar Lampung			2	1			2						1	2	2	1	2	43
																		Average		39.0

Notes: 1=Agriculture/Fishery 2=Irrigation 3=Industry 4=Tourism 5= Mining 6=Energy resources 7=Water resources
8=GDP per capita 9=Poor desa 10=Physicians per 1000 11=Road density
12=Forest area 13=Environmental degradation
14=Conformity to provincial roles 15=Regional importance 16=Local aspirations
17=Overall development efforts

For details see text.

２．１０．４　ＩＤＥＰ地区の選定

（１）２つの原則

ＩＤＥＰ地区選定にあたって、調査団は次の２つの原則を適用する。

１）単位としてカブパテン／コタマジャ
２）１つの州に１つのＩＤＥＰ

原則１は、ＩＤＥＰの焦点を絞るために（例えば、州全体対象のＩＤＥＰは避ける）また、実現を促進するために必要なものである。また、カブパテン／コタマジャは統計分析の基本単位であるという事実も関連している。原則２は、ＩＤＥＰの数を与えられた時間枠の中で処理できるように押えるためである。この制限はそれ自体きわめて理にかなっているが、例えばベンクル州と南スマトラ州の土地面積や人口を比較してみると、幾分公平さを欠くように思われる。ゆえに、この原則は後で緩和しなくてはならないであろう。

（２）開発コンセプトから判断した戦略的地区

開発コンセプト（図２．９．１）だけをとって見ても、ＩＤＥＰが最も役に立つ戦略的地区をはっきり示すことができる。全部で１３になるこれら戦略的地区が、図２．１０．１に可能性のあるＩＤＥＰ地区候補地として示されている。

（３）優先地区の重ね合せ

さきに確認した優先順位の高い地区の上に、これらの戦略的地区を重ね合せてみることによって、ＩＤＥＰ候補地区が決まる。

ジャンビ	クリンチ地区	（農業地帯２）
	バタン・ハリ地区	（農業地帯１）
	タンジュン・ジャブン地区	（農業地帯１）
南スマトラ	パレンバン地区	（第１次工業センター）

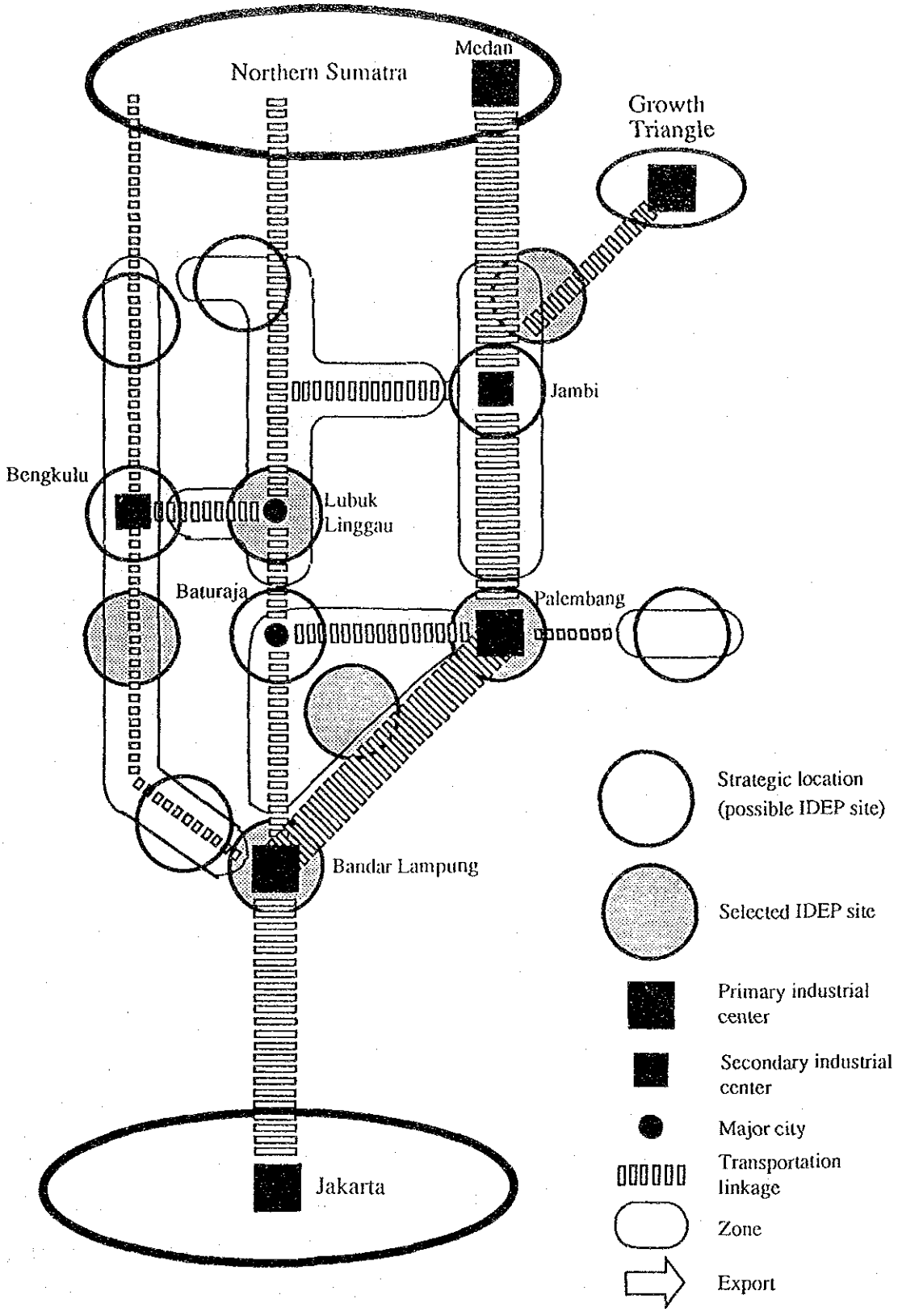


図２．１０．１　戦略的地区（ＩＤＥＰ地区候補地）

	バトゥラジャ地区	(農工業地帯)
	ルブック・リンガウ地区	(農業地帯２)
ベンクル	ベンクル・スラタン地区	(農業地帯３)
ランポン	ランポン・ウタラ地区	(農工業地帯)
	バンダル・ランポン／	(第１次工業センター)
	ランポン・スラタン地区	

（４）選定されたＩＤＥＰサイト

上記９所のサイト候補地については、さらに減らす必要があろう。この最終過程は、以下を考慮して行なう。

１）原則２の緩和

原則２は少し緩めて、南スマトラ州とランポン州にそれぞれ２地区ずつ、ジャンビ州とベンクル州に１地区ずつ割当てることとする。

２）１地帯あたり１サイト

もう一つの点は、地帯（ゾーン）間での割当てである。数を制限するため、３つの農業地帯と１つの農工業地帯のそれぞれに、１つずつの地区を割当てることとする。

この結果、６地区が表２．１０．５に記述され、図２．１０．１にそれらの位置が示されている。図２．１０．２はこれらのサイトを優先地区に重ねて示したものである。表２．１０．６は、それらの地区のいくつかの基本的な指標を要約している。

（５）将来のＩＤＥＰ地区候補地

ＩＤＥＰ策定のためのサイトはこの調査では６地区に制限されているが、ＩＤＥＰをこの６ヵ所に限るべき理由はない。ＩＤＥＰは他の地区にも策定されてしかるべきである。次に、策定の対象となる候補は、当然図２．１０．２で優先地区として確認されたが、ＩＤＥＰ地区としては選定されていないカブパテン及びコタマジャとなろう。

表2.10.5　選択されたIDEPサイト

州	IDEPサイト	説明
ジャンビ	カブパテン・タンジュンジャブン	－「成長の三角地帯」を担った農業基地として、「農業地帯1」の中核として高い成長の可能性 －東海岸の海港ロケーション
南スマトラ	コタマジャ・パレンバン及びその周辺	－「スマトラゲートウェイ三角地帯」の1隅に位置する多角的工業センターとして高い成長の可能性 －工業化と急速な都市成長のためのインフラ開発、および地域の中心としての役割
南スマトラ	カブパテン・ムシラワス及びカブパテン・ラハット	－ベンクルとジャンビに影響力を持つ内陸の経済サブセンター －「農業地帯2」の中核として園芸農業開発に高い可能性
ベンクル	カブパテン・ベンクルスラタン	－「農業地帯3」の中核とて農業と水産業開発に高い可能性 －西海岸道路が改善されれば比較的ジャワに近い地域
ランポン	カブパテン・ランポンウタラ	－「スマトラゲートウェイ三角地帯」の可能性に富む一画で、東スマトラ縦貫道に沿ってバンダル・ランポンとパレンバンの間に位置 －域内移民事業と結び付いた農業開発の高い可能性
ランポン	コタマジャ・バンダルランポン及びカブパテン・ランポンスラタン	－「スマトラゲートウェイ三角地帯」の1隅に位置する第一次主要農工業センターとして高い成長の可能性 －観光開発の高い可能性 －工業化と急速な都市成長のためのインフラ開発、及び地域からジャワへのアクセス点としての役割

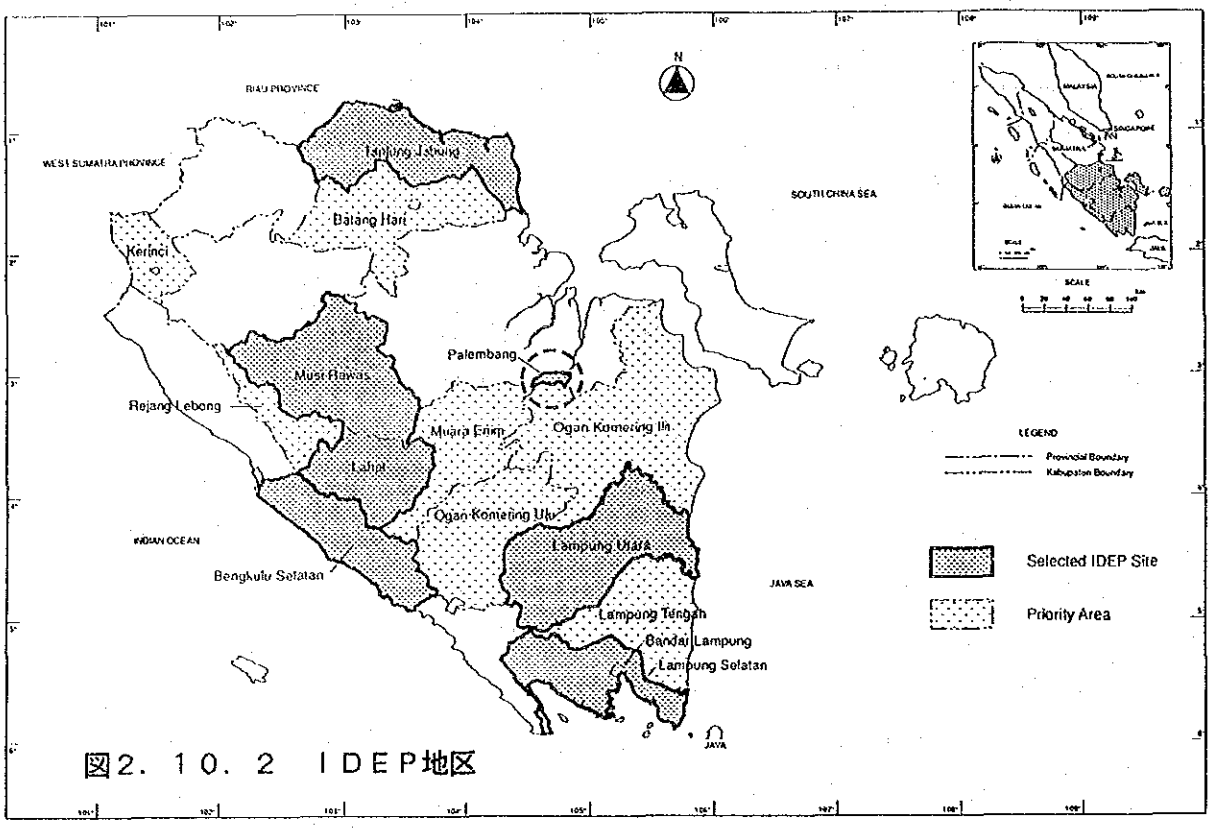


図2．10．2　IDEP地区

表2．10．6　各IDEPの主要指標

IDEP Site	Land Area (km^2)	Population (1990)	Population Density (1990)	GDP (non oil/gas, Rp bil., 1990)	Ratio of Poor Desa (%, 1990)
Tanjung Jabung	10,200 *(19.1)*	361,403 *(17.9)*	35 *(38)*	128 *(17.0)*	12.4 *(18.2)*
Palembang	224 *(0.2)*	1,141,036 *(18.2)*	5,094 *(57)*	1,345 *(33.6)*	11.1 *(26.5)*
Musi Rawas/ Lahat	25,547 *(23.4)*	1,113,792 *(17.7)*	44 *(57)*	464 *(11.6)*	6.5 *(26.5)*
Bengkulu Selatan	5,949 *(30.1)*	298,214 *(25.3)*	50 *(60)*	102 *(22.5)*	3.7 *(6.1)*
Lampung Utara	14,418 *(40.8)*	1,335,435 *(22.2)*	93 *(170)*	359 *(18.5)*	20.3 *(16.4)*
Bandar Lampung/ Lampung Selatan	6,818 *(19.3)*	2,461,746 *(41.0)*	361 *(170)*	921 *(47.5)*	10.7 *(16.4)*
IDEP Total *(% to Region)*	63,156 *(29.0)*	6,711,626 *(43.4)*	– –	3,319 *(46.4)*	– –
IDEP Average *(Regional Average)*	10,526 –	1,118,604 –	106 *(71)*	553 –	10.4 *(19.0)*

Note:　In parentheses are % of provincial total or provincial average.

2．11　ＩＤＥＰの策定

ＩＤＥＰは次の段階を踏んで策定された。

（1）各ＩＤＥＰに対してキャプテンと副キャプテンからなるクルーが割当てられた。

ＩＤＥＰ	キャプテン	副キャプテン
タンジュン・ジャブン	関口	西野
パレンバン	綿貫	坂倉
ムシラワス／ラハット	佐藤	関口
ベンクル・スラタン	ナイト	綿貫、深尾
ランポン・ウタラ	小林	佐藤、プライス
バンダル・ランポン／ランポン・スラタン	豊間根	坂倉、プライス、西野

（2）各ＩＤＥＰ地区に対する暫定プログラムが、オリジナルのロングリストから該当するプロジェクトを選び出すことによって、用意された。

（3）次の目的をもってＩＤＥＰクルーは広範な現地視察を行なった。

－現状を観察し、情報を集める。

－ＩＤＥＰの戦略的焦点（目的、問題点、テーマ）を確認する。

－暫定プログラムを再検討し、変更する。

（4）ＩＤＥＰの問題点とテーマとに対処するために、ＩＤＥＰサブプログラムが確認された。これらは互いに密接に関連して、ＩＤＥＰの目的を効果的に達成するものである。

（5）この暫定プログラムを使って、各サブプログラムの中の構成プロジェクトが選び出された。このプロセスで追加、変更および削除がなされた。詳しい情報、意見および判断を求めるために、チームのセクター専門家との協議が活発に実施された。

（6）構成プロジェクトそれぞれについて、適切な実施タイミングと順序とが決定された。

（7）個々のプロジェクトに対して、コストの見積りもされた。

（8）最後に、各ＩＤＥＰについての記述がまとめられた。

策定されたＩＤＥＰは第４巻第１部のＩＤＥＰ（総合開発プログラム）に記述されている。

２．１２　部門別プロジェクトとその優先順位査定

２．１２．１　ロングリストの準備方法

この最終報告書のプロジェクト・ロングリストは、前の各報告書に入っていたものの改訂版である。前のものとこの改訂版とを比較すると、多くの重要な変更点が分かる。リストを最新に更新しておくためになされた変更もあるが、ほとんどの変更は、部門間の調整とＩＤＥＰ策定プロセス中に出てきた統合を反映している。ＩＤＥＰのニーズに合せて作られたプロジェクトもある。他の部門の条件や要求を入れるために、多くのプロジェクトが改訂されている。この統合プロセスを通して、常に２つの対立する観点があった。それは上からの戦略指向的、国家的および地域的視点と、下からのニーズ指向のローカルな視点とである。これら２つの視点は、妥当なバランスがとられるまで何度も対比させられた。かくして、改訂リスト中のプロジェクトの中には「地域に合せたもの」もあれば、「地元に合せたもの」もあり、さらに「ＩＤＥＰに合せたもの」もあった。つまり、オリジナルのロングリストは、純粋に部門別（統合前の）であったのに対し、改訂版のリストは、部門別に組織されてはいるが、部門間に統合されている。このリストは包括的で、６つのＩＤＥＰを構成している全プロジェクトがリストされている。勿論、どのＩＤＥＰにも属さないその他のプロジェクトも沢山ある。これらはリストの残りの部分である。

２．１２．２　優先順位査定の方法

調査団は、優先順位を付けるために全てのプロジェクトの評価を行った。この優先順位をつける目的は、プロジェクトを不適格としたり棄却することではなく、それぞれの部門内での、そして地域開発という視点でのプロジェトクの相対的な「重要度」を示すことである。その手順は、以下の通りである。

（１）：優先順位査定のために合計１０の評価基準が選択される（表２．１２．１）。

（２）：各基準に照らしてプロジェクトに得点を付ける（５、３、２、１または０）。次に得点は等しく加重されそして加算される。この得点付けは、各部門でそれぞれ行なわれており、異なった部門間で、整合性をとる努力はしていない。しかし、各部門内の評価については、もちろん整合性がとられている。

（３）：各部門で、全てのプロジェクトは合計得点の大きい順に配列される。

（４）：そして、優先順位が決定される。

－高（H）：上から２０％に入るプロジェクト

－中（M）：次の２０％から５０％に入るプロジェクト

－低（L）：低い５０％から１００％に入るプロジェクト

この優先順位については３つの注意が必要である。優先順位Ｌは、決してそのプロジェクトが重要ではないとか棄却すべきであるという意味ではないことにまず注意しなければならない。

これは、ＪＩＣＡチーム独自の査定によれば、部門別ロングリストに記載されている将来のプロジェクトの中で、そのプロジェクトの総合的な重要度が相対的に低いということを意味しているだけである。そこに含まれているプロジェクトは全てなんらかの戦略的な価値がありどれも簡単に排除できるものではない。次に、異なる部門間では優先度の比較ができないことに注意すべきである。つまり、優先順位Ｈの農業プロジェクトは、Ｍの交通プロジェクトより重要であるとは言えないのである。第三番目に、優先順位Ｈ、Ｍ、Ｌは必ずしも実施のタイミングと一致するものではない。優先順位Ｍのプロジェクトを Ｈプロジェクトより早く実施することもある。

表２．１２．１　優先順位査定の基準

	Criterion	Score 5	3	2	1	0	Weight
1.	**Regional Development Strategy**						**2**
(1)	Relevance to spatial strategy (IDEPs in particular)	very much	much	fair	little	none	1
(2)	Contribution to forming the agriculture-industry linked economy	very large	large	fair	small	none	1
2.	**Socio-Economic Impact**						**5**
(3)	Economic growth and its benifit	very large	large	fair	small	none	1
(4)	Equitable distribution (income generation, *employment creation, etc.*)	very effective	effective	fair	ineffective	none	1
(5)	Increase in export	very large	large	fair	small	none	1
(6)	Private involvement	very strong	strong	fair	weak	none	1
(7)	Environmental desirability	very high	high	fair	low	very low	1
3.	**Implementability**						**3**
(8)	Local initiatives and capacity	excellent	sufficient	average	poor	very poor	1
(9)	Urgency / maturity	very high	high	average	low	very low	1
(10)	Fundability (attractiveness to donors / private investors)	very high	high	average	low	very low	1
	Total						**10**

２．１２．３　ショートリストを構成するプレフィージビリティ調査対象プロジェクトの選定方法

非常に重要度の高いプロジェクトの中から、いくつかについてプレフィージビリティ調査を行った。この結果については、第４巻第２部のプレフィージビリティ調査を参照願いたい。そのようなプロジェクトは２９件あり、合計２３のプレフィージビリティスタディの中で調査された（複数プロジェクトを扱うものが３調査ある）。これら２９のプレフィージビリティスタディは全て優先順位Ｈプロジェクトの中から選択されている。これらの選定審査は調査団の専門家による慎重な判断に基づくものであるが、一般的には地域的重要性の高いプロジェクトやＩＤＥＰに特に関連のあるプロジェクトが優先されている。従って、ＩＤＥＰの構成要素として数えられていないのは、２９のプロジェトクのうち４つだけ（２３の調査のうちの４つだけ）である。これら２９のプロジェクトがこの計画のショートリストを構成している。

２．１２．４　プロジェクトの部門別・優先順位別要約

表２．１２．２は、ロングリストに記載されている全プロジェクトの部門別・優先順位別件数を示している。合計３５１のプロジェクトが、本計画の中で提案されている（優先順位高（Ｈ）：７７件、中（Ｍ）：１０８件、低（Ｌ）：１４４件、進行中：２２件）。そのうちの１７５件が１つまたは複数のＩＤＥＰに含まれている。一般的に、優先順位の高低はＩＤＥＰと緊密な関連を持ち、高順位プロジェクトの７０％がＩＤＥＰに属している。

表２．１２．２　部門別優先順位別のプロジェクトリスト

	High priority	1*	2**	Midium priority	Low priority	On-going	Total
1 Agriculture	8	(2)	(2)	10	5		23
inside IDEP	6	(2)	(2)	2	2		10
2 Fisheries	7	(7)	(2)	7	8		22
inside IDEP	7	(7)	(2)	4	8		19
3 Industry	8	(3)	(3)	11	21	8	48
inside IDEP	6	(3)	(3)	6	13	7	32
4 Mining/Energy	9	(2)	(2)	10	6		25
inside IDEP	5	(2)	(2)	3	2		10
5 Tourism	3	(2)	(2)	7	15	1	26
inside IDEP	1	(1)	(1)	3	4	1	9
6 Water Resources	8	(3)	(3)	10	17	6	41
inside IDEP	7	(2)	(2)	7	5	3	22
7 Transportation	15	(4)	(3)	23	43		81
inside IDEP	10	(3)	(2)	10	14		34
8 Telecommunication	4	(2)	(2)	3	9	6	22
inside IDEP	3	(1)	(1)	1	3	2	9
9 Urban/Rural Development	8	(2)	(2)	17	6	1	32
inside IDEP	7	(2)	(2)	10	2		19
10 Land Use/Forestry/Environment	4	(2)	(2)	10	14		28
inside IDEP	2	(2)	(2)	4	4		10
11 Institutional Support	3	(0)	(0)				3
inside IDEP	1	(0)	(0)				1
Total	77	(29)	(23)	108	144	22	351
inside IDEP	55	(25)	(19)	50	57	13	175

Notes: 1* is the number of projects subject to prefeasibility study in high priority (project base).
2** is the number of prefeasibility studies in high priority (study base).